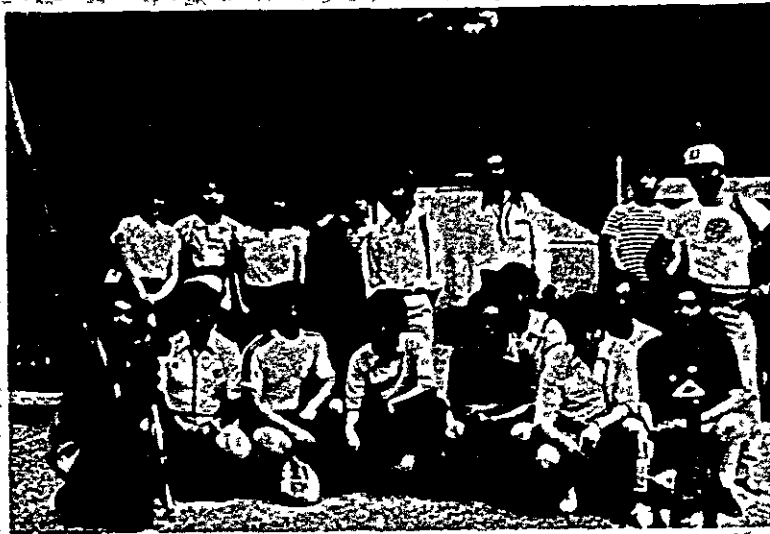


# ゆづかり

第9回移住者子弟技術研修生  
研 修 レ ポ ー ト



1981年3月

国際協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3.16	700
	36
登録No. 00626	EP

## ま え が き

昭和46年度から実施している移住者子弟技術研修制度も、本年4月に第11回生を迎えることになり、中南米より受入れた研修生は、現在研修中の第10回生も含め、総数159名になりました。

本誌は、昭和54年4月から、55年9月までの18ヶ月間日本の各地でそれぞれの技術研修を受けた、第9回研修生18名の研修記録です。

幼い頃両親に連れられて移住し成人となった、あるいは中南米の地で生れた二世の人達の中から選ばれた研修生達にとって、父母の育った国における研修は単に技術を身につけるということだけでなく、日本の国そのものを学ぶことではなかったろうか。

高度に発達した機械文明、あるいは精密な社会機構等を有する日本の長所と短所を、この美しい国土の中で身をもって学んだ、そのことが帰国後のそれぞれの社会において、いつの日か多に役立つことを願ってやみません。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解下さり、研修生諸君を温かくご指導下さった、関係機関の皆様方にあらためて感謝の意を表する次第です。

昭和56年2月

国際協力事業団

移住計画調査部長

JICA LIBRARY



1063211E7J

## 目 次

### ま え が き

ブラジル国	グアタバラ	大津 敏一	1
	イビウーナ	林 ルイス 伸明	5
	ヒリチーバ・ミリン	菅野 弘	9
	グアマ	吉野 ベドロ 譲	11
	ポルト・ヴェーリョ	須藤 グロリア	13
	フンシャール	小松 滋	15
	ペロッタス	横山 隆	18
パラグアイ国	イグアスー	上田 時江	20
	"	菅野 忠	23
	アルトパラナ	村尾 健明	25
	フラム	松尾 あけみ	27
アルゼンティン国	ボンテ・ベドラ	重永 智平	29
ボリヴィア国	オキナワ	長嶺 マリオ	32
	"	具志堅 るり子	34
	サンファン	米倉 英智也	36
	"	深浦 伸明	39
ペルー国	リマ	森崎 エリザベス	42
	リマ	丸山 ロベルト	43
子弟研修生一覧表			46

表紙写真は、合同研修会での9回生全員  
(金沢兼六公園前)

## 第9回移住者子弟技術研修生



箱根で合同研修会(79年10月5日)



修了式の日に  
三井ビル前で(80年10月1日)

## 「一年半の研修を終えて」

大 津 敏 一

54年度第9回移住者子弟研修生として、ブラジル、サンパウロ州、グッタバラ移住地にて運良く選ばれ、はるばると日本へ来ることができました。もちろん国際協力事業団一同と親のおかげです。でもグッタバラ移住地における皆様や先輩渡辺様の力もあったからです。渡辺様には色々と世話になり数々とアドバイスをしてもらい、おかげ様で大きな岩も乗り切ることができ心から感謝しております。

日本へ着くと桜の花で始まり、梅雨は美しい紅葉の真っ最中になることでしょ。

長い様で短い、人生の中のほんのひと時の研修を無事に終え、心に大きなゆとりが出た様ですがまだ帰国してからの役割を果たさなければゆとりは出てこないでしょ。

一年間茨城県養鶏試験場で研修を行い、残りの半年は東茨城郡小川町にある飼養鶏園の玉子内で研修を終えました。どちらとも心暖かく受け入れてくれ、その一年半の研修を簡単に振り返って見たいと思います。

日本へ来た時こちらの文化、そして養鶏について何もわからなかったと言っていたでしょ。その上日本語もろくにわかりませんでした。

養鶏試験場にて1年間の内容は鶏病を中心に他の養鶏に関する勉強を進めてきました。

最初の3ヶ月間は現場の各部を回り、試験場の様子や現場の人達と話しを結ぶことに夢中でした。この中で自分が学んだことは、鶏に感心を持つだけでなく、むしろ鶏に愛情を持ち特に幼雛時にはいつも気を抜かずに見守り、水などは絶対に切らさない様、そしてワクチン接種後などにはビタミン剤なり抗生物質を給与しストレスを助ける。この生ワクチンと不活化ワクチンの違いとワクチンの接種方法、特にIC不活化ワクチンの接種などは胸筋に行うことが良いとわかりました。と言うことはICのワクチンは強いからです。足の筋肉に行なう場合は動脈を刺したり、神経や骨などに傷を着けない様にする事です。

病理の方ではまず最初に鶏体の各部分名前と各臓器の名前、そして病名などを図書室で調べることがでした。日本語がろくに読めない自分にとっては本当につらかった。図書室では辞典を目の前に必死の戦いでした。試験場であるから1から10まで教えてくれることとばかり思っていました。そう甘くはありません。自分で1から4ぐらいまで覚え、それからわからないことを聞くなり質問しながら5から10まで教えてもらうことでした。

鶏病を覚えるにはまず最初に鶏の性質、臓器の名前と内臓の各部分がどこにあるか覚えることです。日本へ来る前はわずかにニューカッスル病、伝染性コリーザ、コクシジウム病、鶏痘、マレック病くらいしかわかりませんでした。それもただ名前だけでしたが、今では数種類の鶏病がわかる様になり、

その上組織的にもわかる様になりました。鶏病は家畜の中で一番多いとされている。それに一つの病気が数株に分れているので頭が混乱してしまふ。例えば、ND、IB、ICなど数種類の違った性質を持つ株があり、それにあつた種類のワクチン株がある。又コクシジウム症は9種類の違った原虫があり、その原虫の種類によって急性、悪性コクシジウムが慢性コクシジウム症にわかる。コクシの原虫やロイコチゾーン症の原虫などは自分で集めて顕微鏡で見ることができました。

解剖もかなりやり特に感じたことは、肉眼で見てもちょっとやそつとで病名がわからないことです。その他、例えば卵ついと尿酸塩沈着症が同じにあつた場合どちらを取るかがむずかしい。卵ついがあつたので尿酸塩沈着症になつたのか、それとも尿酸塩沈着症があつたから卵ついを起したのか非常にむずかしいことだと思ひます。

消毒に着いてはまず3つの方法に分けられる。物理的消毒法、物理化学的消毒法と化学的消毒法です。消毒はその種類によりかぎられた物にしか効果がない。又、消毒の種類によって微生物の抵抗力が違い、どれが一番強いからよくわからないが一般論から行くと芽胞が一番抵抗力が強いと知られているが鶏は芽胞菌の心配はまだない。オールアウトした鶏舎を消毒する時にはかならず有機物などをかきとってから行なわないと消毒力が減少する。どんな消毒剤も使用上規定の濃度があり、それ以上の位敷にしても消毒力は増加しないことです。

予防ワクチンは安全性のためにあり、ワクチンのある物に対しては使用することが望まれる。ワクチンを行なつたからと云つて100%効果があるとはかぎらない。ワクチンは数種類の株があり、それに対して効果がなくなつたと思へば、他の株のワクチンに切替える必要があると強く教えられました。

今こゝへ書いていることはほんの一部であり、この他数多くのことを教えてもらひました。例えば鶏の湿度は動物の中でもっとも高いことがわかりました。

育成、成鶏の管理の方ではまずヒナの入雛時期により育成率、又成鶏になつてからの産卵率が違ふこと。鶏の初産日齢は日長時間やいろいろなストレスによって変動する。ヒナは孵卵器内で37℃~38℃前後の温度の中から発生し、1日齢でヒナの体温は39.6℃、2日齢で40.10℃、5日齢で40.99℃、15日齢で41.10℃、成鶏で41.25℃~42.50℃前後となっている。ヒナが発生して数日たつたといふ自分で温度のちやうせいは出きないので入雛時には温度を気を着けて保つてやること。冬場の湿度は少し長い期間にしてやり、湿度などは高目にしてやること。育成時の光線管理の目的は性成熟を適正な日齢にすることですが、ウインドレス鶏舎でないといふ色々な点灯法は出きない。又ウインドレス鶏舎は施設費が高つくので経営にあわなないそうです。デビークの実施時期は自分なりにいい時期を選らぶことが一番良いですが、80日齢以前までです。

デビーク、ワクチン接種や移動後はストレスがかかるので4~5日間ビタミン剤なり抗生物質を与えることが大事です。

人

鶏がこのましい温度は20℃前後と知られている。

採卵鶏の飼料の方では栄養水準、給与法と飼料配合設計を習い経営に重要なことだとわかりました。自分でも配合設計を少しやって見ましたが、飼料配合設計は非常になれるまでむずかしくぬんどうなことがわかりました。今では良い飼料設計を作り出すにはコンピュータを使わなければ出きません。

育種の方では鶏がどの様に改良されて来たかとか、どの鶏が代表品種なのか教えてもらいました。又、各銘柄や品種の特徴。

自分は育種の方を学ぶつもりはなかったし、それについて勉強する必要もなかったのですが、こうして勉強してみると鶏のすべてがわかり本当に良かったと思います。その他種鶏舎や孵卵舎の手伝いが出きたことは自分にとってすごくためになりました。

経営の方では計算機の使いかた、簿記、経営自己診断などまったく予定していなかったことを教えてもらい本当にためになりました。

採血や血液の分離の方法などは獣医といっしょにやりながら覚えることができました。まだその他色々習うことができました。

こうして一年が過ぎて見ると苦勞そして楽しいことがあり、又、自分が思っていたより色々学ぶことが出き本当に良かった。

55年4月からは株式会社鶏園の玉子内で実習のかたちで入りました。目的は皆様と同様に働らきながら自分の体で少しでも多く日本の養鶏技術を学ぶためです。

入って間もなく皆様に追い付き、自分はここの人だと思いこんで一つ一つの仕事を大事に、そしてその仕事が終わると自分で先立ちすぐに他の仕事に掛かることが出来る様になり、その上鶏の観察も自分なりにほんだんしながら悪い鶏を自分で淘汰しました。時には現場で働いている同じ仲間にも注意をあたえることもあり、おかげで皆様の中に積極的に入って冗談、仕事のことや個人的なことも話せることができ何よりでした。

一つ一つに手を付けることは自分にとって緊張と責任感で必死の思いでした。この様なことがあったので自分にすごく力付けてくれたのではないでしょう。

ここでは幼雛と成鶏の管理をすべてやり、自分のこれからの経営に役立つ数々なことを手に取ることが出きましたが、帰国してからどうやってそれを生かして行くかが問題でしょう。

研修の最後のしめくりとして約1ヶ月間色々な養鶏場を見学することが出きました。

一年半の研修の中には数々なことがありました。移住センター、箱根、そして能登半島についての合同研修会。研修の中でもっとも皆様の楽しみだったのではないでしょう。又、個人的な参加については昨年、今年と5月に行なわれた海外日系人大会にも参加でき、多数の県費留学生とも合うことが出きた上、昨年は両紀殿下、又大平総理大臣などと合うことが出きました。今年の7月には日系人協会しゅさいの県費留学生夏期合同研修会にも個人で参加させていただきました。この研修会には百



人をこえる留学生が集まり、POLA化粧品会社やキリンビール工場などいっしょに見学させていただきました。

今年の9月には広島で行なわれた養鶏大会にも参加しいい勉強になり本当に良かったと思います。

出来るだけ無駄なく試験場又は愛知園で学んだことを基本的に、自分の養鶏経営をより良く生かして行きたいと思っています。そして帰国したら早く実行して皆様に思返ししたいと思います。その上自分を力付てくれた二度とわすれることの出きない渡辺一寛様には本当に言葉がありません。自分がブラジルを出る時元気を体で見送りに来てくれました。あいにく今年の7月にガンで二人の子供を失ってこの世から去って行きました。自分は日本に来て大きな物を手にしましたが、手に入れることの出きないこんなに大きな暖い物を失うとは思っていませんでした。本当に残念です。だからこの人のためにもがんばりたいと思います。

本当に私を心暖く迎え入れてくれた日本の皆様には心深くお礼申し上げます。そしてちよこちよこ世話になった関東支部の皆様、特に甘利様や吉田様には色々とめんどろ見ていただきありがとうございました。

国際協力事業団一同本当にありがとうございました。

数々金のことや他にいろいろと文句があったと思いますが、自分達はお金で買うことのできない物を手にしたと思います。

## 「日本の印象」

ブラジルでいろいろな人から日本の事を聞き、自分が頭の中に思いこんでいた日本とはべつであった。びっくりする事ばかりです。

日本へ着きその時の気持はただ飛行機から降りほっとしたうれしさと言いかよるこびと言いか、ただそれだけでした。自分が大きな飛行場にいる事も気が付かず、又は日本へ来たと言いかよるこびはまったくなかったのがふしぎです。まだブラジルにいるつもりで飛行場を出、日本にいる事をわすれ、バスの乗り口までまちがいました。

まだ着いたばかりでなれなかつたせいか、車は反対走っているし、運転手はいないしびっくり目が覚める様でした。バスで海外移住センターへ行くところからぞいて見た日本は本当に小さかった。始めて見た日本、家は小さいし、どこまで行っても家はならんでいるのですきまがないようでした。

桜の花が満開だったのでとてもすばらしくてなんとも言えませんでした。桜の木の下を歩いている時、又は花見、木の下で酒を飲んでいる時、本当になんとも言えないくらいでした。

日本へ着き今までの間少し歩いて見た所やっぱりせまいです。道路もせまいけれど、農家もせまく

て見たかいないようでしたが、そうでもなかった。いろいろ聞いて見れば、冬はハウスしきの小屋でなんでもとれると聞きびっくりしました。最初はあのハウスの小屋を見てなんだろうと考えました。見て残念だったのは、農家で仕事をしているのは年寄りしか見えなかったからです。かわいそうな気もしました。

日本の便利と書くと本当にびっくりします。何から何まで自動販売機、それから電話一本でなんでも必要な物は家まで、ただし金さえあれば、でもこれで皆んな幸せなんだろうかとつくづく感じました。

5月の連休に山形へ行き、景色がとっても良かったです。それにさくらほの花も満開でした。まだ目に浮びます。でも帰りにびっくり、あの車の行列、ありの行列と書うかかめの行列と書うか本当によく来っっているな！と感じました。わりもないですね。一家に車が2～3台ならんでいるんだから。

東京へ行けばあの人間の海、地下鉄、電車、バスになんか乗ればせんべいのようにになります。時間的にはだれもないような時があり、自分には信じられませんでした。

女性のはでな化粧のしかた。本当にいろいろな事ばかり、思うにも思えない日本。びっくりする事ばかりです。これからもまだまだびっくりする事が山ほどある事でしよう。

## 「研修を終えて」

林・ルイス・伸明

国際協力事業団9回研修生の一員として日本に来てから早いものでもう1年半たってしまいました。初めて日本にやって来た僕はめずらしいものやわからない事がたくさんありました。一番こまったのはかん字でした。

僕の目的は植物病理の事をおぼえるのでした。そして4月12日に高知県立実践農業大学校に入学しました。1年生は全りょうせいでした。僕はここに入ってから研修生でなくこの学校の学生としてあつかってくれました最初は知ってる人がいなくてまよったり不安などで一時ノイローゼみたいになった事もあった僕はブラジルでは高校もそつぎょうしてないため、こちらの大学について行けるかと不安でした。りょうでは同室の友人が良い人ばかりで放課後色々とおしえてくれ、そして1ヶ月もたてば他に親しい友人も出来んきょうでわからないかんじなどおしえてくれました。そんなことなどで無事1年半が過ぎました、何により心配なのは成績でしたが、その成績はあまり悪くはなかったので一応ほっとしました。そしてこれで事業団や国の両親にもわけが立つと思いました。

クラブ活動では初めはたつきゅう部に入り練習にはげみましたがとく島の四国大会でさんねんがらまけました。そしてその後友人にさそわれて野球部に入り、ここでもよきせんばいや友人たちが居てれんしゅうにはげんだ結果、今年の春、大洲市で行われた四国球技大学で総合ゆうしゅうしました。そして9月16日から21日にかけて水戸市の全国大会にさん加するため毎日放課後練習にはげんで居ます。

学科の最初は農業ボキ、経営学など基礎的な事を学びましたが、植物病理的な科目がないため、一時学校を退えようと思った事もありましたが、かわらずに居ました。それは植物病理だけでなく社会べんきょうそして農業の基礎・基本なども大事だと思ったからです、その後9ヶ月ぐらいたってから、野菜、花卉、果樹などの園芸や農業の全般について学ぶように成った。そして病理の科目も出て来ましたが大体病理の全般的なものでした。この学校に入って今まで一番うれしかったのは、野菜のテストでクラスの3番に良い点を取った事でした。

実習の方は初じめから草刈り除草などの仕事が多くありましたが日がたっていくにつれて色々かわった仕事などもさせられました。例えば、田植、それも機械でなく手でした。

2月21日に実験をやり初じめました。トマトは定植してもう数日たっていたため、そのままを10本をもらって初じめた事でした。最初の調査はトマトが花をつけて何日で実になるかでした。それはあまりむずかしい事ではなくて2日に1度記録をしていけば良かったのです。しかし春休日が終わってからトマトに疫病が入りました。この疫病は土壌伝染病で低温多湿の条件下で多発しやすい、これを防ぐにはハウスの温度を高くし湿度を下げることでした。そして接木又は土壌消毒を行なうと良い。その時僕はあまりその病気のことをはくわしく知らなかったので先生にくわしくおしえてもらいました。でも生育中に発病したため防ぎよりは有ったが試験があったた、そして先生は新入生やそつぎょう生たちのことではそがしくそこまで手がとどかず手おくれになりました。病気は広がりひどくなり、僕の調査は止まってしまいました。当然の結果とし収量は上がらなく品質はおち、あまり良くない結果でしたが疫病のおそろしさを僕におしえてもらったのが何よりも良いべんきょうになったと思った。

5月6日には又新しくメロンの定植をした。そして植え方消毒の仕方などくわしくおしえてもらいました。29日には僕ともう1人の同級生といっしょにそのメロンの実験をやり初じめた。課題は1つの木でいくつの実をとれるかでした。しかしその実験もしっぱいに終った。それは今年の異常気象の雨で♀花が少なく、所によると♀花が1こもない木があった。そして病気などが発生したためでした此の病気は葉をおかす病害の中では最も音へん的で被害も大きい、それでやや乾燥きみの条件下で発生しやすく施設栽培での発生が多い事がわかる。防除は薬剤などでやる又は乾燥させないこと、でも湿度上げると言うことは別の病気が発生しやすい条件下となるから、むずかしい。そのため僕はすぐ別の実験のことを考えだしました。今度の実験はそつろんのためでだいじであつたためです。そしてその計画をたてるために何日もゼミをやりました。そして7月16日にそのことについて各はん

は自分のやる実験を先生、同級又は下級生たちの前で発表しました。僕らのグループは3人で課題は、鉢土の肥料成分が収量及び品質にえいきょうをあたえるかでした。試験区は6区あり各区ごとに肥料成分をへらしていたのです。そして実験中に調査するのは葉面積、葉重、茎重、茎長、根長、根重、そして鉢土の肥料成分がどう変化しているかを各木曜日に調査することになりました。鉢土は1ヶ月前に作っておきました。

8月19日トマトの播種をトロ箱に条播とバラ播の2通りでやった。27と29日鉢上げを行なった。僕は各区60鉢ぐらいで、ていねいに植えました。そして9月4日は鉢土のえいきょうを見るため初じめての実験を行った。そしてその結果、肥料の一番少ない5、6区がひどくひん弱なため、8日に1れつ(8こ)に液肥をやったそしてそれが何日でもとにもどるかを調査するのでした。

11日に台風13号が近づいたため育苗ハウス植えている苗などを安全な調室温などに運びハウスのビニールをとばされないようにうちつけたり、はったりと朝早くからいそがしかった。でも台風は北の方へずれたためのがれました。それでもビニールがはがされたりと被害がありました。でも苗がたすかったため実験はしっばいせずすみそうです。しかし僕は10月に帰国するため、その後の実験の結果わからずさんねんだと思ったが先生が後から結果を知らずと目って下さるので安心しました。

9月に入ってから日の過ぎるのが早く感じうれしいやらかなしいやらと複雑な気持です。荷物の事や別れの会などでずいぶんいそがしい。この1年半は事業団に日本の名所や色々な所も見せてもらったが、一番良かったのは箱根でした。

すばらしい自然の中で楽しい毎日でしたこの1年半は僕の人生の何十分の一かも知れんけど、事業団の方たち、学校の先生や友人などのおかげで充実した良い思い出になりました。これからもこのファイトで日本で学んだ事をブラジルの大りく農業にどう生かしてやって行くかを考へながら実践にはげみたいと思います。

## 「合同研修会に参加して」

ぼくは、ブラジルに行く時はとおいたびなんかしたことはありませんでした。あっちではたびをするのにびくびくして、こわい気もしました。でも日本へ来て、それもなくなりまあ行きたい所へは行けるようになりました。汽車にのったのはじめてでした。毎週、土曜にはおばあちゃんどこへ汽車でとちゅうまで行き、バスにのり変えて帰ってます。でも、1人で東京まで行くと思ったら、すこしまよのおそれていたのです。だけどやって見れば、おそれていたほどもまよわなかったからますます底胸がわいてきました。これだけでも、合同研修会に参加してよかったと思います。

東京2日の朝の7時ごろつきあんまり早かったのでついでに上野動物園に行ったけどさんねんながら門はしまっていたのでパンダが見えずセンターへ行きました。行った時は2~3人しかいなくて

夜の7時にはみんながあつまったと思う。なつかしい人ばかりですごく感動しました。たった1日ぐらいしかあつた人たちなのに、あいに行くとわかった時はすごくうれしい気持でした。そして自分はブラジル人なのでひさしぶりにブラジル語を使った時びっくりしました。すごく言いにくかった、たった6カ月ぐらいでこれほどになるとは一番びっくり。

あくる日の朝からコーカン会があり、いろいろ先輩後輩たちの話しを聞き、ぼくらの今までのなやみや、あと1年にこまることなどを聞き、そして先輩たちにどうすればいいのかのアドバイスを受けました。1人々がちがうなやみといけんととってもいい話合でした。どうして今まで先輩たちはこんなことしなかったのだろうかと思ひます。でも考へて見れば、先輩たちは今まで自分のなやみは、自分ひとりで解決してつたのだろうかと思ひ、えらい感じもします。でもかえって自分で解決した方が人生にとってよいべんきょうになると思ひます。おとうさんもよく言ひました、自分のことは自分1人でやれ、だれにもせわかけるな、それがいちばんのべんきょうになるんだと言ひられました。でもやれない場合があるので、そういう時は事業団や先生やしんせきの人たちにそうだんしています。例へば今後の研修先など。この会話もひるまで終り、それからボウリング大会をやひ、まぐれにぼくは一番を取りました。その夜は横浜の中国料理をおごってもらひ、事業団の人たちと食事をし話したりうたつたり、たいへんたのしい、かなしいそしてすこしうらやましい(研修が終つて帰るから)先輩たちのわかれかいでした。

4日にはセンターを出かまくらの建長寺、大仏、エノ島、そして箱根の山を上りレイクホテルへ行つた。そこではじめて温泉へつかりました、なんとも言えない気分でした。出て夜食をし、あとでみんなの一部屋にあつまり、先輩の前で話しくかつたこととらい年の4月からの研修先をどうするかの問題を話し合ひました。ぼくも色々不安な物もあり話したけど、やっぱりぼくは、人があんまりいる所では話しくいので、事業団の人にもあんまりわからなかつたようでした。その夜はそのま終りました。

あすの朝は箱根をハイキングしました。ぼくにははじめてのハイキングでした。とってもたのしかつた、なにもかもすることから見るものがめずらしい物ばかりで、しゃしんもなんでもかんでもパッチパッチ取り、あとでやきまわすのにくろうでした。その夜はつかれてはいたけれども、あすをもうみんなとわかれなくてはいけないから夜遅くまで話してました。

6日の朝はぼく、小松さん、ときえさん、あけみさんとエリザベスさんらみんなで富士山の回りを観光しました、でもさんねんながら雲つて行のですがたを見せてくれませんでした。その夜はセンターでとまらしてもらひ、あすの10時20分ごろの光号が急行にのり変えては高知へもどつて来ました。

短い期間でしたけど、すごく自分のためにはすごくプラスになつた旅行でしたと今は思ひています。事業団の方々に感謝しています。どうもありがとうございます。

## 「技術研修を終えて」

菅野 弘

昭和54年第9回生、早くも研修期間が終ろうとしています。4月5日、日本につき1年半の技術研修を受け、僕は福島県出身で3歳の時ブラジルにわたり、そのため日本語の読み書きがふじゅうでした。日本に来て目で見るとさわるもの、みんな機械で自動的に生活されているみんなおどろきなものでした。でもこれでいいのだろうか？。機械が人間をつかう時代が来るのだろうか？。今の日本は世界1位になろうと、進んでいるのが感じます。研修が始まりなれてない生活のため始めは、つらいこともありましたけれど、生活にもなれ、日本はほんとうにいい所です。

僕は1年横浜職業訓練校電子技術に入り日本語の読み書きが難しいため始めは皆んなについて行くのが大変でした。始めの3ヶ月間は訓練校の先生方、又クラスの皆さんに詳しく説明してもらってほんとうに助かりました。訓練校では色々勉強になり、自分の夢も幅が広がった感じがします。1年の間だ訓練校でやりました、運動会、訓練生体育祭、水泳大会などほんとうにいい思い出になりました。でも一番楽しいことは半年ぶりで研修生の皆さん合える時です。それは自分たちが外国で育ち、あるいは生れ、日本人の考えとちがって話しがあわないからです。

日本に来る前は、これだけ安全な国とは思っていませんでした。町はきれいに皆んなが守り、自動車などは安全を守、ほんとうにみならうことが出来ました。休みなど1人で福島、京都、大阪、広島、山口県などに行きまして、いろんな所見られて、日本での思い出がたくさんできました。もう一つ感じたのは日本の季節、夏はむし暑いけれど、秋に入ると山の景色美しい色が見ることが出来ます。そして冬は雪がふり楽しいスキーが出てほんとうに四季のあ日本、そして僕の古里忘れることはできません。

訓練校ではアンプ、ラジオ、テレビなど自分で設計し組立るので先生も皆んなにきびしく教え、自分たちが組立たものがかんぜんに動作しないとイケないのです。きびしく教えてくれた先生方、僕にとっていい勉強になりました。

12月に入るとマイクロコンピュータの勉強が始まり、コンピュータは始めてなのでとっても難しいものでした。実習ではコンピュータのプログラムを考えて動作させるのです。プログラムを考えるのはとっても難しいので、一つまちがったらコンピュータは動きません。でも実際組んで見るとおもしろいものです。これからはコンピュータの時代でもっと勉強を続けてがんばって行きたいと思えます。

4月に入り僕は東京の東芝サービスステーションで実習することになりましてサービス部ではカラーテレビやラジカセット、ビデオの修理をやりました。そして6月には滋賀県に家電技術のコースの研修も受けまして、又7月には川崎の東芝小向工場でビデオのおしゅうを受け、組立ラインや修理も

やりました。この東芝での実習は勉強になり、技術を目につけることもできました。又9月の最後の研修は埼玉県の東芝カラーテレビ工場で実習やります。あと少しの期間の研修もがんばって行きたいと思います。東芝の皆様これだけの技術を目につけることができまして、ほんとうにありがとうございます。日本で学んだ技術きつとブラジルに帰って生じて行きたいと思います。

4月からいろいろとごしんせつにみて下った、甘利さん、そして吉田さんほんとうにありがとうございます。

この1年半の研修を受けさしてくれました、国際協力事業団いろいろとお世話になりました。ほんとうにありがとうございます。

事業団の皆様心から礼申し上げます。

## 「前期研修を終えて」

日本に4月5日について丁度桜の花が満開で、とってもすばらしい季節でした。この1年間の研修を終えて楽しいことや悪いことも、ありました。私は4月7日に横浜職業訓練校に入り、電子科として研修を受まして、自分としては、思っていたより勉強を学ぶことができて、これは自分の努力と言うより学校の先生や事業団のおかげだと思います。

最初の3ヶ月は日本語が難しいのでクラスの皆さんについて行くことが大変でした。電子科の先生も皆んなにとってもきびしく、きびしく教え、でも電気で言う物は危険が多いので私はこおかいしていません。訓練校では、アンブ、ラジオ、テレビ、コンピュータなどがポイントになり、実習で組立をやりました。ブラジルでも電子を勉強しましたけれど、日本の学校は高いレベルで教え、とても学ぶことが出きました。そのため、この体で覚えた技術、ブラジルに帰っても忘れることがなく、ブラジルのためにもなると思います。

生活もだんだんとなれ、私は日本と言う国はこんなに安全だとは思っていませんでした。ただ外国の人に言わせれば日本の国は小さい、人も大ぜいいるため住むことが出きないと考えます。しかし日本に1年住みますと、これだけべんりな国はないと思いました。

日本に来て、いろいろな所を見まして、とってもすばらしい所です。ただ日本の歴史をならっていないため、見てもあんまりわかりません。この1年研修も終りまして、あと半年間の研修もがんばります。しかし事業団としては、なにのためにあるのでしょうか。日本の国のためでしょうか、それとも南米とか外国の移住した人のためでしょうか？私はわかりません。でもこれから半年間もよろしくおねがいします。

## 「第9回生研修を終えて」

吉野ペドロ 謹

僕の両親が生れた国日本の土に足を踏み入れてから一年半がすぎさろうとしています。本当に月日が立つのは早いものです。昨年の4月4日に日本につきました、春でしたので東京では、さくらの花がさいていました。生れて初めてさくらの花を見ました。春といっても僕みたいに年中夏の所に住んでいるものは物すごく寒く感じました。日本について初めての夜は東京の移住センターにしゅうごうしました。東京の1日目はものすごく寒くてなかなかねむれませんでした。自分の住んでいる所は年中夏です。ブラジルには春夏秋冬の四季がないのです。でもかんきとときはあります。かんきのときは一番あつときが38℃、そしてりきときが20℃までさがります。とてもすずしいです。日本の夏はしつ渡が高いのもものすごくむしあついです。夜でもむしあつくてなかなかねつかれませんでした。とにかく自分の祖先といえども初めての国なので右も左もわからないと言ひ事で本当に心配と不安でいっぱいでした。そして朝東京の本部にあいさつにむかいました。東京の市内を廻っているうちにいろんなものを見かけました。

今年の4月はもう一度さくらの花を見る事ができました。さくらの花はなんか見てもきれいという程ありません。ブラジルにもさくらの花がさくならば、有名になると思います。

日本は、とてもいいところです。四季があって、そして冬は雪がふるとスケートやスキーができます。この寒いところにいるんなあそびができます。夏には海水浴ができます。とにかく日本にブラジルから研修に来て、勉強もしました。そしていろんな所に行く事ができました。又都城に来てから下宿の中原さんところの田んぼのくさとりに行きました。今はじょそうざいをつかっているそうです。今日は20年前をふりかえり田おしというもので草取りをしました。田んぼに入るのも初めてだった。

田の草取りも初めてしました。20年前は日本も人力、馬牛力で仕事をしていたそうです。これも研修いがいの勉強になりました。

僕の研修は宮崎県仕土原町の総合農業試験場内で1年間お世話になりました。試験場内で果樹と養鶏の勉強をしました。まず果樹の勉強を6ヶ月間しました。6ヶ月間のうちにいろいろな品種の名前と分せき、せんていなえ木、みかんのてんかななどをおぼえました。10月1日からは養鶏の勉強をしました。そしてこの6ヶ月間のあいだにいろいろな病気の名前とくすりとしりょうの名前をおぼえました。それから鶏がとつぜんしんでその鶏をかいほうしてそれからどの病気でこの鶏がとつぜんしんだのが調べる事がとってもむずかしいでした。でも先生といっしょにかいほうしてそれからその病気にかからないようにやくだつくすりをやることです。鶏にはいろいろな病気があり、ちゅういしなればならないと思います。

日本での技術研修を終えて仕土原の1年間の研修を終り、農機具の整備修理についてあとの6ヶ月



間の研修の目的地の都城市に來まして研修の目的は農機具の整備および修理を勉強をすることになりました。まず最初の日にセンターにあいさつに行く下宿先に滞りました。仕事の1日目はトラクターの分解と修理を勉強しました。初めての事で理解するのがなかなかでしたがなんかいいも分解修理しているうちに自然に部品の前こうしょうの内ようなどをおぼえることが出来るようになりました。またセンターに研修に来て早や6ヶ月間がおわろうとしています。この6ヶ月の間に機械の修理や整備の仕事をやりにこなせるようになりました。日本の修理技術はものすごくはったつしているのでこの技術をかんぜんにマスターしてブラジルにかえて、日本でおぼえた技術をパーラでやくだつようにがんばりたいとおもいます。

都城の農業協同組合、中央農機自動車整備センターは9月15日終りたいとおもいます。それからお世話になった皆様のかたがたに、おれいとおわかれのあいさつにいきます。そして9月30日にはさいごの研修はっぴようが東京の海外移住センターで行われる。そして日本の皆様とおわかれしたいと思ひます。

この研修をくださった国際協力事業団の皆様、それとお世話になった皆様、ほんとうに長い間ありがとうございました。

## 「日本のいんしょう」

日本について、はじめは東京ではでんしゃでまわりました。日本はせまいところでのうかがたくさんくだものをうえています。びわやくりなどめずらしいくだものがあります。みたこともないきれいな花がさいています。じどうしゃがせまいみちをはしています。きれいなみずがちかくにあります。パラではうみまでじどうしゃで5じかんかかります。ブラジルでは、やすみのひはしごととはしません。が日本人は日よりびでもやすみなしてがんばっています。ぼくはブラジルでは日本ごをがっこうでならいませんでした。しかしいえて6か月ぐらいまいばんべんきょうをしました。でも、きれいなじはかけません。ただしくもかけません。かんじもよめないし、かけません。それでもおぼえたいとおもっています。ちゅうりがっこうをそつぎょうして、べんきょうをやめてから2年になります。その2年のなかで、はじめはおとうさんといっしょにのうぎょうをやっていました。ことしからはみやざきでべんきょうをしています。ブラジルでは、はじめはおとうさんとピメンタドヘイノをうえました。しかしびょうきでみなかれてしまいました。そのあとにマラクジアをうえました。はじめはねだんがたかかったので、もうけました。でもおとどしからねだんがさがったので、しょうばいにかんがすこししかかってくれなくなりました。ブラジルでのうぎょうはなかなかうまくいきませんでした。それで日本へべんきょうにきました。あたらしいのうぎょうをべんきょうし、のうぎょうきかいもべんきょうしたいとおもっています。またこの1年かんで、じょうずに日本ごをはなしたり、よんだり、かいたり

できるようになりたいとおもっています。

## 「技術研修をおえて」

須藤 グロリア

思えば早いもので私が初めて訪日して早1年半がすぎ、もう来月は帰国せねばなりません。両親からきいていた日本と、自分の目で見、肌で感じた日本との差があまりにも大きいこと……。でもブラジルにはない日本の気候風土、食べもの、沢山の友人も出来、それぞれ暖かいもてなしをうけたことは一生忘れることはないと思います。内原での勉強は毎日が張り合いのある生活でした。起床から、労働、床につくまでの間はピシリとスケジュールが組まれ、はたしてついて行けるのかと心配しましたが皆さんからはげまされ無事に修了することが出来ました。日本語を話すことと、聞くことはどうにか理解できるのですが、本をよむこと、すこしむづかしい言葉の意味がわからなくてこまりました。これを機会に沢山の日本語の本をよんで勉強したいと思っています。

学校では食べる物一切自給自足、びん詰、缶詰類も作製し、とくに今は食品添加物が多く含まれている食品がほとんどですが、学校で作っているものはこの様なものは一切含まれておらず安心して食することが出来ます。炊事も先生を中心に栄養科の生徒が交替で当番にあたり学校で学んだ料理を実習にうつすわけです。

日本古来の武道なき刀も初めて手にしましたが中々思うような形がきまらず苦労しました。茶道も見様見かねで、今はどうにか形だけですがお茶をたてることが出来ました。華道も致しました。教材の花も自分たちが作り育てたものを用います。畑に行って自分で花をえらび揃えてこなければなりません。普通日本でお花を習うという先生が活け易い様にそろえて下さるとのことですが、ここでは一切自分勢しなければ活けられません。その意味においても実力がつくことはたしかなことです。私もおかけ様で初段をいただくことが出来ました。

見るものきくものすべてが物めずらしく、分らない私を形だけでも出来る様に御指導下さった諸先生の御苦労は、本当に大変であったろうと今更乍ら感謝いたしております。たのしかった思い出としては10月に行なわれた研修旅行でした。栄養科生、高等科生合同のものでしたが、静岡県浜松市の製茶工場見学、お茶は春に出荷されるのでこの時期は製造していませんでした。この時は作り方の工程の説明をきき、又茶畑を見学しきれいに並んだお茶の木はとても美しいと思いました。南国にはどこにもあるサボテンもハウスの中で育て管理されていました都会へ売りに出されるそうです。

日本人として生まれたら一生に一度はお参りしなければ……、ときかされていた宇治山田市にある

伊勢神宮へも参拝して来ました。最後は和歌山県箕島市にあるミカン生産地でした。山の裾から上の方まで南側に面したところは全部ミカン畑でした。黄色く色づいて葉の緑とよくあってとても見事でした。

ミカンという私達は簡単と思っていましたが、それはとんでもない間違いであることが自分で試みて初めてわかりました。片手でミカンの軸をハサミで切ると同時に手のひらにこれを受けていないとあつかうのです。あれほど沢山のミカンを1個1個この様にして収穫することを考えると粗末には出来ないと思つて思いました。

今回の研修先の責任者の方々は皆私達の大先輩の卒業生であるとお聞きし私達もなおいっそう頑張つてやろうと心に誓いました。

後期研修については、かねがね私は洋服に大変興味を持っていましたのでぜひ勉強したいと思ひ福島へ来て叔父の家から洋装学校へ通学しました。まわりは山でかこまれたちやうどポルトベリ市くらいの人口の静かな町です。福島県の政治の中心地だけあって学校も沢山あつまっています。私の学校は町の中にある信夫山の中腹にあり、今年は開校40周年にもなる伝統のある学校です。

校長は代理の片山邦子先生はヘッドレッサーとしても有名です。授業は毎日がたのしく今までの作品も基礎縫いから始まりスカート、ブラウス、ワンピース、又、ペーパーフラワーも作りました。7月には校内の研究発表会が行なわれました。これは1年生に先輩が組まされ、布地のえらび方、デザイン、縫い方、アクセサリーはなにがよいかまですべて指導して下さり洋服を1着仕上げます。それを自分がモデルになって着用し、ショーを行なうのです。先生方を始め、本校卒業生で市内で洋装店を開いていられる方々を審査員として招き優秀作品に賞を下されます。洋装学校だから作品を作るだけかと思つたらそうではなく文学と一般教養も時間割に入りあらためて自分を見なおし心のゆとりを持つべく教えられました。洋装の技術もやはり現地よりは上で今まで以上に新しいことを吸収したつもりです。話できいたり、本で見たりでは分からないことが多くありましたが、先生方の親切な御指導を心から感謝します。もっともっと沢山習っていきたいことがありましたが、限られた期限内ではどうすることも出来ません。半年間ではありましたが自分なりに研究しながらこの中味を1年分も2年分も濃くして行きたいと思ひます。

こんなにすばらしい日本で研修出来たことを事業団の皆様方の御協力によるものです。本当に有りがとうございました。

## 「合同研修に参加して」

最初に事業団の皆様にお礼申し上げたいと思ひます。先日は私たちがってに意見をださせてもらひ先輩たちの経験やいろいろな話しを聞くことができました。

団体もよかったですし、うけれども合同研修会もやくにたちました。来年もぜひともできたらよいと思  
っています。私たちがついた時8回生たちがむかえに来てくれてたのがうれしく思いましたので私たち  
も先輩達をおみおくりをしたかったのです。ほんとうにありがとうございました。

8回生とのスポーツ大会で合同にボウリングをしましたけれど私はボウリングのボールをもったの  
は初めてでしたのであまりうまくできませんでしたが楽しかったです。

懇談会での夕食の時も皆仲よくうちとけあい歌ったり、わらったり、にぎやかに楽しむことができ  
てとてもいい思い出にのこりました。

それから私たち9回生は鎌倉、江の島、箱根を見学したのですが、日本の美しいところどころが見  
られてほんとうによかったです。そして最後の日はハイキングにいてたくさん歩かされたことがい  
ちばんつよく印象にのこりました。

合同研修会があってもう2カ月もたちました。先輩たちはそれぞれ日本で研修したことを自分の家  
で活躍していることでしゅう。

## 「技術研修を終えて」

小 松 滋

「光陰矢の如し」。この言葉の通りに日本での1年半の研修も、あと残り僅かになりました。私は  
昨年、桜の花咲く4月国際協力事業団の第9回移住者子弟技術研修生として18年ぶりに日本の地を  
踏みました。

そして前期1カ年は岡山の農業試験場・農業大学校で研修を受けました。試験場は岡山市内からバ  
スで約40分前後の緑に囲まれた静かな所にあり私が着いた時は丁度、桃の花の満開期で、あたり一  
面が桃の花でとてもきれいでした。ここ岡山の試験場での私の研修目的は主として果樹というもの  
に対する基礎的な知識・技術である肥培管理から収穫・剪定といった事を各先生方の御指導の元で学び  
又農業大学校では講義を受けました。

岡山県は水蜜桃・白桃等の桃をはじめ色々な温帯果樹類があり、当試験場でも桃、梨、ブドウ等の  
果樹が沢山あります。私が来た当初満開であった桃、梨の花も散り、次第に肥大して行く果実に摘果  
作業をしました。摘果は果実が肥大して行くにつれ養分の競合がおきない様うに、そしてより良い品  
質の果実を収穫するために1個1個丁寧に選びとって行きます。其の後は果実の肥大に伴ない袋掛け  
をします。これは病虫害の防除と果実面損傷等の防ぐのも兼て袋掛け又は摘果作業は果樹栽培にとっ  
て大事である事を学びました。又ブドウでは花の満開期前後のジベレリン処理法により種子なしブド

ウを作る事もしており大変に勉強になりました。

梅雨が上がった6月の末から早生桃の砂子をはじめに桃やブドウの収穫が始まりました。そして収穫して来た桃、梨、ブドウを選別、計量等の収穫調査をした後、各品種、系統別に数個サンプルとしてとり果実重量、果色、縦・横径、糖度、酸度等の果実調査をし色々な果実の品種特性を知る事が出来ました。

秋も深まった10月も末頃には殆どの収穫も終りになり、これから冬にかけて土壌改良が行なわれトレンチャーで樹の根元近くに溝を掘りそこにオガクズやチップかすを腐ふんと混合した有機質「パーク堆肥」を施与しました。これは私が最も興味を持ったもののひとつでした。昔しから「農業はまず土から」という様に農業をする者にとって土は一番大切なものですが最近、やたらと科学肥料が出回っており、それ等の肥料は土をこわし細けを覆せ細らせて行くものに過ぎずこの土壌改良によるパーク堆肥の施与は大変参考になりました。

冬に入り年も明けた1月から剪定が始まりました。剪定は研修の中でも是非とも学んで行きたい技術のひとつでもあり、果樹栽培において、かかす事の出来ない作業です。私は各先生方の指導の元で剪定について樹勢のバランス、日照、防除等を考え春と共に開花、結実し夏に良質な果実がとれる様うにと願い1枚、1枚を丁寧に切り剪定の大事さとむずかしさを知りました。

岡山での1カ年の研修を3月末で終了し、4月から後期は熱帯果樹の研修を希望し日本でも亜熱帯圏に属する唯一の県である沖縄県の農業試験場、名護支場で研修を受ける事が出来ました。名護支場では主としてパイナップル、ゴヤバの肥培管理を学び又其他マンゴー、パッションフルーツ、マカダミアナッツ、レイシーといった色々な熱帯果樹の栽培についても先生方から御指導を受け、どれをとっても今後自分がブラジルで果樹栽培をして行く上で大切な事ばかりです。

9月4日から6日まで私は名護支場の先生と共に石垣市・農林水産省熱帯農業研究センター沖縄支所で行なわれたゴヤバ研究会の会議に出席させていただきました。研究会には沖縄農試・名護支場をはじめ鹿児島大学・農学部、琉球大学、熊本県果樹試験場、森永乳業、雷印乳業、琉球産の方々が出席され、今後のゴヤバ栽培、加工等についての問題に皆様が真剣に取り組み研究されているのを見て大変参考になり出席して本当に良かったと思えました。

この1年半岡山県立農業試験場や沖縄県名護支場で学んだ技術を生かし、これからのブラジル農業に少しでも役立つ様に努力して行きたいと思っております。

研修期間も残り少なくなった今、この1年半を振り返って見ると楽しい事や苦しい事色々経験し又沢山の友人も出来ました。私にとって、この日本での思い出は一生忘れません。

最後になりましたが、この様子を機会を与えて下さいました国際協力事業団の方々広島支部、沖縄支部の皆様、又親切に御指導して下さいました岡山農業試験場及び農業大専校、そして沖縄農業試験場・名護支場の各先生方や色々とお世話になりました皆様に心から感謝し御礼申し上げます。

1年半本当に有難うございました。

## 「合同研修会を終えて」

今度、私達9回生は日本での研修期間中3回目の、合同研修が8月5～9日まで北陸、石川県で行こなわれる事になりました。

本当ならば、毎年行なわれる全国青少年農村技術交換大会に参加するのですが、今年は兵庫県で開催される大会が秋に行なわれる事になりましたので、私達独自の合同研修会が石川県に決まったのです。集合日は8月の5日ですが、私は少し早目に沖縄を立ち東京に行き、新宿から中央本線の列車に乗り大糸線を通り、石川県金沢市内の集合場所ホテル坂に着いたのが集合予定時刻を1時間半も過ぎた7時30分頃で、遅れて行き皆んなに申し訳けないと思いました。

4カ月ぶりに会った研修生達は皆な元気そうで、話題も次から次へと出て来ました。その夜ホテル坂での夕食の豪華(?)なこと、事業団の方の心遣は嬉しいのですが、しかし私にとってはどうも堅苦しく食事した気がしなかったと言うのが本音でした。

次の日6日は午前中金沢市内の見学を、兼六園、金沢城から武家屋敷等を見て回りました。特に日本三景園のひとつを代表する兼六園の庭園は素晴らしい、きれいに整枝された木立の中を皆んなで見て回りました。

金沢市内見学を終え、ホテル坂に戻り、それから原久三郎さんと言う方がお世話して下さったマイクロバスに乗り、海浜道路千里浜を通り、能登半島の北陸婦人青少年センター唐島荘別館臨海荘へと向かいました。途中北陸乳業に寄り、牛乳について、乳しぼりからビン詰め、販売に至るまでの過程を映画で詳しく説明していただき、又、実際に工場を見学し各地から集まって来た牛乳を工場機械による一連した流れ作業によって製品化されて行くのを見て驚くばかりでした。

次の日7日はマイクロバスで能登半島めぐり、はじめは輪島に行き朝市を見て回りました。市場内では漆器で有名な輪島塗や、その他色々な工芸品等を店の前に並べて賑やかでした。それからバスは輪島を後に、千枚田、時国家の屋敷に寄り、見付け島に行きました。そこに見る船の形をした島(別名・軍艦島)は自然が作り上げた芸術といった感じでした。そこで昼食をしてから兎路海岸を通り、九十九湾に着きました。九十九湾は大小九十九の湾があるのでこの名がついたそうで、遊覧船に乗り湾の内外を回りました。

次の日、8日は午前中は石川・能登についてお話を聞き、午後からは各自自由行動となりました。夕食後、海岸でたき火を囲み歌を歌いそして皆んなの手拍子や掛け声で盆踊りを踊り今回の合同研修会最後の楽しい一夜を過ごし、次の日の朝は各自研修先へと立って行きました。

## 「技術研修を終えて」

横 山 隆

昨年4月、桜の花咲く、春の入学季節に第9回移住者子弟技術研修生、18名の中の一員として、17年振りに、祖国に帰って来て、早くも、1年半の畜産の技術研修も、残り少ない、日々と成りました。酪農家に生れ育ち、中学2年の末期迄でいた、故郷の面影は、四季の移り変りの爽しさと、北海道の、風物の一つに、タワーサイロと、色あざやかな欧州風な牛舎、放牧された乳牛などで、ありました。その昔、馬と牛を作り、共進会にも出して来た、父の畜産話を聞くたびに、興味が湧き、一時は伯国に於て、酪農と乳牛の肥育を、手がけたが、収益を上げるには、時期的に、早かった感じで、成果があがらなかった。しかし、興味は、薄れる事なく、残っていた折に、近年になり、回転率の遅い畜産から、穀物へと変わり、中でも、牧場をも潰す此の頃の現状下、遅れている畜産技術と共に後退し、牛肉不足が騒わがれ、伯国内に於いては重要な問題と成って居る現状に、近年急激に発展して来た日本の畜産技術を学ぶ事で有ると期待して居た。輸入飼料の上に立つ畜産の効率を上げる集約的な技術と経営、また世界の先進地域の施設を、合理的に小型化して、無駄なく活用する技術などを期待してきた。特にその将来、機械化が可能と思われる肉牛の短期肥育の研修を望んで居た所、日本でも最も広大な面積(3,600ha)と、大規模な畜産体系を持つ、国立の農林水産省十勝種畜牧場の草地畜産研修所に入所しました。入所した同期生は、日本の各県から、畜産を志す者達16名入所しました。

皆な高校を卒業したばかりで、しかも学校の推薦との事で、成績優秀な者ばかりでした。始め、お国訛りもあって、馴染めそうではなかったが、1カ月もしない内に、畜産を志すと言う共通点から、心の通いも早く、担当の、先生も解くばかりでした。此の研修所は、実習7、講義3の割合の勉強方法が粗まれ、特に、講師の方々は素直らしく、帯広畜産大学の教授、札幌から酪農研究会部長、また他の農業試験場の専門の先生方と、畜産を一筋に営んで来た牧場主を招いての講義は、今後の畜産人としての、専門的な知識を、詳しく教えて下さいました。また、「何かの問題で、解らない時は、連絡して下さい」と言ってくれた親切な教授も居て、心強く感じました。

また、毎月1度の場外見学で、前期生の牧場や、有名な牧場と同系の種畜牧場・農業試験場と、時には1泊2日の日程で回り、直接牧場主から、重要な勘所を教わり、色々と納得する事も多くあり、畜産に対する視野を広める事が出来ました。また実習も、肉牛と、言わず最初は、酪農課、種畜課の馬と鶏羊、飼料課、肉牛の経営技術課と回り、一般的な管理技術を、現場の職員の先生方に教わり、専攻の肉牛課で、種雄牛、検定牛と繁殖牛の飼養管理を熱心に指導して頂きました。

入所当時は、山々に残雪が幾分有って、肌寒かったが、研修生活にも幾分、慣れ始めた頃は、すっかり牧場内の唐松林も、若葉の季節となり、実習にも、励みが出た頃、夏の乾草収納で、汗にまみれ

での実習でしたが、1日の実習を終え、夕日に向かっての深呼吸をした時のさわやかな気持は、また格別であった。また、夏休みでの場外実習で、個人の牧場での実習では、色々な作業を体験しました。

また季節と共に移り変わる牧場の景色は早く、中でも日増しに紅葉化する物寂しい北国の秋、また冬の朝、毎日1.5kmの雷道を自転車で畜舎迄通った寒い深り着く日なども有った。中でも裸る朝夕舎外での家畜人工授精の実習は、体力と寒さとの戦いであり、厳しかったが、今になって振り返って見ると、あの厳しさが、早く上達させる事に繋がったと良い思い出に残って居る。この様な内に、1年間の総決算とも言え、家畜人工授精師養成講習が始まり、以前から、少しずつ勉強はしていたが、今年から難かしくなり、期間も1カ月に延び、科目数も増えた事で、研修所内は気迫感に満ちあふれ、皆んな独自の勉強法で頑張り通し、幸い全員合格し、多くの先輩と我々の担当指導を最後に、水い農林省勤めを退職した先生と共に、長い様で短かった、1年間の研修生活が無事に終了しました。

家畜審査員でも有った担当の先生は、牛作りは削蹄からと言って、削蹄師養成講習と実地試験を受けさせて下さり合格した。この1年間に色々な事がありました。国際電話で父危篤の知らせで、研修期間中に一時帰国に協力して下さいました場長さん、旅費を心配して借して呉れると言った次長さん、また手頃よく、図らって下さった事業団の方々と心配をお掛けした1カ月間でしたが、「目的に拘る」と、決意も新たに再度戻った前期1年間の研修でありました。後期は、伯国の南端と緯度的に似て居る、暖地型の畜産技術をと希望し、九州へと飛び、ここ阿蘇の草地畜産高等研修所で研修を行なって居ります。此の研修所は、十勝種畜牧場と同様のカリキュラムでした。研修生仲間が32名入所しました。実習の多くは取員の先生の指導で、研修生に多くをまかせて呉れますので、牛に対する注意力が変われ良い勉強になります。しかし、試験場でもあり、直接経営に繋がらないので、実践農家の在り方について学ぶ為、派遣実習生として2、3の畜産牧場を紹介して頂き、2週間づつの在家実習をし、色々な人と牛をとむして、交流を深め、数々の御指導と御支援、御協力により、畜産に対する基礎と技術をよりいっそう深く学ぶ事が出来ました。

「畜産」と言う永い道程を目標に向かって畜産人の1人の端くれとして精いっぱい努力し、基礎技術を応用し、生涯の仕事として、発展して行きたいと思ひます。また伯国に帰っても、日本で知り合った方々との交流を大切にしていきたいと思ひます。此の1年半を心良く親切に御指導して下さいました先生方、在家実習に御協力して下さいました家族の皆様と此の様な機会を与えて下さり、また見守って頂きました国際協力事業団の皆様、今後とも末長く良き指導を願ひながら、心からお礼申し上げます。本当に有難うございました。

## 「前期の研修を終えて」

昨年の4月初春の陽光うらかな日本へ17年振りに来て桜の花の色鮮かだった頃から早くも1年



が来て四季の移り変りと共に過ごした前期の研修は思えば水いよりで短かった気もする。しかし今ここにその感想を書くに当って研修での思い出が走馬灯の如く脳裏をかすめ前期での研修の貴重な事を物語るようだ。酪農家に生れ育ち酪農について幾分子守唄の様に聞かされ、又数年間ブラジルで、一時酪農の体験もした。だが親からの教えは尊い事で有っても余りその気でなかったのか、覚えもしなかった事をこの1年間基礎的な事、新しい技術を帯広畜大の専門講師から第一から学び得る事が出来た。中でも一番全力を注いだのは家畜人工授精師養成講習会での約1月間と引き続いて行われた実施と学科の17科目の試験にどうにか合格したが、言葉では言い現せない苦勞をした。しかし、その甲斐が有って合格した事は嬉しかったが、これから先々はその技術を括用する事によってより一層の責任が有り不安も有りますが、十分に生かし畜産人として活躍したいと思う。その他実習で覚えた削蹄、鼻木通し、牛の飼養管理など色々と体験した前期の研修で有りました。これらを基礎的知識として後期研修に於いても色々と見聞を広め勉強しようと思う。また形骸的な性格のみか日本社会での1年間幾分窮屈な事も有りましたが、多くの良き先生方々と接する事も出来また多くの先輩や同期生の友人にも恐れ、色々と今後の勉強の繋りなどを得る切掛けになった事など大へん前期の収穫は大きかったと思いました。

また知人を大切に色々と向上する様に努力したいと思う。

## 「技術研修を終えて」

上 田 時 江

1年半の研修生活も残り少なくなり何かと忙しい今日此頃です。昭和54年4月の始めに家族の者に見送られて、不安と期待の入りまじった気持ちで、アスンシオン空港を立って早や帰る時が来てしまった感じがす「元気で頑張れよ!!」と励まされながら出たのが昨日のこのように思い出されます。

私達を乗せた飛行機は、サンパウロ、リオデジャネイロ、リマ、ロスアンゼルス、アンカレッジと経由して4月4日の夕方成田新空港に到着しました。ちょうど桜の季節でした。この日は曇りでまだ少し寒かったように覚えて居ります。後で空港から移住センターへ向かうバスの窓から見た桜の花がとっても印象に残って居ります。8時頃センターに着いた時先輩達には心良く出迎えて頂きました。そして色々と日本での生活について教えて下さったこと、ほんとうに助かりました。そしてセンターで過ごした数日間の内に皆ずっと以前からの友人であったかの様に打ち解けていきました。又その後何度か仲間達と集まって合同研修会などを持った事は広い南米の地で友の輪を広げる意味でも、有意

義なものだったと思います。

4月9日良く晴れた日でした東京から新幹線で研修先の広島へと向かいました。窓から見た富士山がきれいだったのを覚えています。広島には3時頃着きました駅には広島支部の方や親戚の者が迎えに来てくれていたのでほんとうにたすかりました。皆の懐しい顔を見た時の感激は忘れられません。日本に帰って来たんだなあと実感したのもこの時でした。私の研修は広島の県立病院で始まりました。白衣をもらいオリエンテーションを受けながら私はせっかく日本まで勉強に来たんだから一生懸命頑張ろうと自分に言い聞かせました。

私はパ国の助産婦学校を卒業してから来たのでわりとスムーズに研修に入る事が出来ました。ここでは仕事に慣れるとメンバーに加えられると言う具合でした。研修内容は分娩介助や褥婦の看護などでしたが中でも一番勉強になったのは新生児の管理でした。最初の頃、自分はこんな事をしていいんだらうかと不安と、あせりを感じた事も有りました。今こうして振り返って見ますと、体で覚えなければいけないものが多いのでこの1年の研修生活はほんとうに大切なものだったと思って居ります。

55年4月から後期研修を名古屋の聖霊病院で行こなって居ります。此の病院では母子保健に力を入れているので私にとって絶好の研修場所となりました。

まずはじめに母児に取って欠かすこと出来ないお乳についての実技研修をしました。それは桶谷式のオッパイ治療手技です。たとえば授乳しているお母さんのオッパイの1本の腺がつまっただけでも、熱と痛みを伴い乳腺炎になります。これは授乳するお母さんにとっては大変なトラブルです。今までの治療法ですと授乳を中止して外科的に処置していたものですが、この桶谷式の治療法ではいまままで通り授乳しマッサージの手技を加えながら治療して行くものです。他にも乳汁促進や離乳食についても学びました。母親学級の指導や家嫂計画の指導なども何度か見せてもらいました。

そして分娩室では計画分娩と自然分娩の両方行なっています。計画分娩とは、陣痛誘発、陣痛促進、分娩促進を薬を使って行ないます。これに加えて、B-メトロと言って子宮口を開くために風せん状のものも使います。この時期の経過観察が大切ですし又、正確な状況判断も必要です。なんとと言っても相手はお腹の中に入ってる大切な赤ちゃんなんですもの。40週間と言う長い間お母さんのお腹の中で大切に育てられた赤ちゃんは、女性の一生の内の大事業とも言える、お産と言うかたちで、新しい生命は母体外に出ます。この時私は「〇〇さんおめでとございます。男のお子さんですよ。//」とか女のお子さんですよ。//」と言って生まれたばかりの赤ちゃんをお母さんに見せて上げます。この時のよるこびはほんとうにこの道を選んで良かったと思わずには居られません。この気持を大切にしてください。これから頑張っていくつもりです。そしてパラグアイに帰っても1人でも多くの方のお役に立てたら幸いです。そして私にとって1年半の日本での研修生活はいろいろな意味でほんとうに良かったと思って居ります。

5才の時日本を離れて、パラグアイで育った私はパラグアイ人にもなり切れず、かと言って日本人

にもなり切れない自分が中途半ばを感じがして、とても嫌でした。又、淋しいことだと思って居ましたが、今こうして、自分の生まれた広島の田舎に帰って来て、あのもやもやした気持ちすっきりしました。そして自分の故郷は日本に有るんだと心から思える様になり、それと同じくらいパラグアイも大切に思う様になりました。

最後になってしまいましたがこの1年半の研修期間中あたたかく見守って下さった広島病院の皆様をはじめ後期研修をさせて頂いた聖徳病院のシスター達や助産婦の皆様には最後まで手を取って指導して頂きましたことなど、一生かかっても返えすことの出来ないほどのものを受けました。ほんとうに有りがとうございました心からお礼申し上げます。そしてこんな機会を作って下さった国際協力事業団の皆様ほんとうに有りがとうございました。今後とも私達の後輩のためにこの研修制度を続けて下さいませ様お願い致します。

## 「 日 本 の 印 象 」

緑の季節となりました。そして何かと、雨の多い今日此頃です。

私達、第9回子弟研修生が日本に来て早いものでもう2ヶ月になります。

私はパラグアイを出発した時は、不安と、期待の入りまじったものが有ったけれど、だんだん日本に近づくにつれて少々の事ではパラグアイに帰えれない所に来てしまったと、言ひ思でいっぱいでした。

成田空港に着いた時、本部の方が迎えに来て下さっていたのでほんとうに安心しました。それに、2年振りに会う友達も来てくれていて、とても心強かったです。

それから空港から横浜の移住センターに向う時に見た桜の花がとても印象的でした。それでも日本に来たと言う実感はわきませんでした。なんだか自分の祖国に思えなかったのです。バスや電車に乗って居る人達がいつも見なれている現地人ではなくまぎれもなくみんな日本人だったりしても、すぐくあたりまえの事なのにとっても意外に思えたり、道を行く人達を見てなんと日本人ばかりなんだろうと思ったり、それでやっと、ああ、自分も日本に来て日本の土を踏んでいるんだなあーと自分自身をなっとくさせているような具合でした。だから横浜の移住センターで過した4日間は私達研修生にとって貴重な日々だったと思います。それに研修生同士なかま意識が目ばえてとても良い雰囲気でした。

なんと言っても一番ゾツとしたのは東京のラッシュアワーでした。そしてびっくりするほど高いビルディングその谷間に見える小さいなマッチ箱のような家、その一つ一つを自分の目で見たり聞いたり出来てほんとうに良かったと思って居ります。

さていよいよそれぞれの研修先に行く日が来ましたみんな別れをおしみながらも6ヶ月したら又会えると、励し合いながら元気よく別れました。

私も初めて乗るシンカンセンで研修先である広島にきました。岡山。仲間もいたしそれに引率の方もいっしょでしたが、そこから広島駅まで1人だったので大変心細かったのをおぼえています。それでもシンカンセンを降りた時、広島支部の方方そして私の親類の顔を見た時は涙が出てしまいました。そして此頃にしてようやく日本に帰って来た実感がわいてきました。私がパラグアイに行ったのはまだ5才にもなっていない頃でしたが、自分達が昔住んでいた所に行くと不思議といろんな事が思い出されて来て叔母達もびっくりしていました。

4月11日から始まった私の研修生活今の所順調に行って居ります少々の苦労は有りますが、たいした事では有りません。

## 「技術研修を終えて」

菅野 忠

夢と希望に、燃えて15年ぶりの祖国で、技術研修を始めてからもう1年半になりました。幼ない頃の私の知っている日本とは、随分違った現在の日本での研修に、最初は、ちょっととまどいを感じました。

私の最初の研修先は、秋田県立畜産試験場で、そこでは、養鶏一般についての知識を得るために、養鶏の専門書を、読み、疑問に思ふ所や、わからない所は、そのつど専門の先生に聞くという方法で進められました。

これと平行して実際に現場に出て実修も、しました。私が主に実修したのは、ふ卵に関する事です。卵をふ卵器に入卵するには、種卵がいりますので当然と思いますが、種鶏の管理から始めて、集卵、貯卵温度、貯卵日数、ふ卵温度、湿度等を毎日明記して(記録を取って)次のふ卵の時と比較する時の資料にしました。受精卵、無精卵、中止卵を見わける検卵は、自分の目と勘で見わけるのでちよと苦勞しました。雛が発生して鑑別された雌雛の選別、予防注射等を学びました。

イオン水給与による初生雛の発育を、イオン水を与えない雛との比較して雛の健強性を、調べる試験も手伝って色々勉強になりました。又一般養鶏の実体を知るために見学させてもらったり、実際に、養鶏家の所で実習しました。その他白河種鶏場、小岩井牧場等色々な試験場を見学して回り養鶏に関する資料を集めたり、参考になる話しを聞かしていただきました。

又、休みを利用して北海道、東北地方の旅行、研修生全員の合同研修、箱根見物などの行事もあり、日本での1年目で苦しい中でも、楽しみもある54年を終りました。

今年、1月より私の最大の研修目的である、初生雛雌雄鑑別を、岐阜市の後藤ふ卵場で実習する事

になり、岐阜市に着いて練習を始めるまで不安でした。

岐阜市での研修は、きびしく、一般社員と一緒に仕事をし、夜、練習をするので、眠むたいやら、疲れたやらで大変でしたが、皆さんの暖かい心使いで、どうにか雄雌がわかる様になりました。この仕事も目と感がたよりですのでこれからが大変だと思います。

この1年半の研修を、ふりかえって見ると、色々な事を学び色々な事を体験したと思います。もしかしたら研修そのものよりも、日本の文化、物の考え方など、私達の国と比較して見ても大変な違いがあります。この様に、日本で体験し学んだ事が、これからの私におよぼす影響は、大きいと思います。私に、この様なチャンスを与えて下さった関係者に感謝いたします。

## 「日本の印象」

未知の国、パラグアイに行ってから十何年ぶりの、故郷の土である。今でも、はっきりと覚えている。家を出る時にりんごの花が満開だった事、たくさんの知人に見送られて、生れ故郷を出発、一路横浜へ、そして船で何十日という旅をしてパラグアイに着いた。これから私達が住み、開拓して行く原始林を見た時は、ものすごい木があるな—と思った事、その木々の中を真っすぐに伸びている広い道路。そして、ずいぶん赤い土だな—と思った事など。今でも、懐しく思い出す事があります。

行った当時のパラグアイ、もちろん移住地は、電気などは、もちろん無く、日本で生活していた時とは、随分かけはなれたランプ生活でした。学校に行くにも、バスが通っているわけでもなし、皆んなで何十キロメートルもの道を歩いた事でしょう。

私達の、両親でも日本から持参して行ったバイクで、何キロメートルも離れた店に買物に行くといった広い土地でした。それでも、自分の欲しい物が、有りませんでした。

そんな土地で、自分の畑で取れた色々な作物を、美味しくなる様に、そして良くなる様に、くふうをしながらずっとやってきたと思います。

そのうちに、牧畜も良くなるだろうし、果樹も、そして雑作も良くなるだろうと。

今では、機械で全部やる様になり、作付け面積も増え、消費量も増えて来ました。

また電気もつき、電気製品のふっきゅうなどで移住地も、ずいぶん文化的になりました。でもこれらの文化生活に必要な色々な製品はほとんどが輸入品ですから故障したりすると大変困ります。今では、修理する人がいますが、技術的にもう少しだと思いますし価格も少し高いかな—。だから日本の様な国をうらやましいな—と思う事もあります。

そう思っていた日本に念願かなって日本の土を踏む事が出来ました。

私達が、いた時の日本とは、たしかに違っています。住宅は、ずいぶん明るく近代的になっています。川も川岸も、きれいに改良されて、見た目には、コンクリートの白さや、真っすぐな線が良く見

えました。でも昔あったあのネコヤナギなどが、なくなってしまって自然でない人に作られた美しさでした。道路も、きれいに舗装されていて車の量も多く、車も色々なメーカーの車が走っていますし電車なんかでも数多く走っていて交通の便は、すごくいいですね。また店に行くとなんでもあります。インスタント食品が安すいのに比べて、肉や果実が高いのに驚いています。また電気製品や、衣服類が安いですね。それに何んでも自動販売機で売っているので便利です。電話でもダイヤルを回すだけで、どんなに遠くてもすぐ通じますね。

その様に日本は、なんでも便利になっているのに、日本人達は、時間から時間まで、せっせと働いています。日本人が、勤勉なのは、わかりますが、もう少しのんびり出来ないものかなーと思いました。

なんでもあり、技術も進歩していて、便利な国に勤勉な人々が住み、風景の美しい日本。でも、段々と自然の美しさが少なくなった、国日本だと思えます。

故郷、日本に来てからまだ2ヶ月ですが、私は、その様に感じました。

これから約1年半日本に、いる間数多くの日本の自然の美しさを見つけないと思ひ、また、私が幼かった頃の日本を、今の日本で見たいと思ひます。

## 「技術研修を終えて」

村 尾 健 朗

私は、第9回移住者子弟研修生として、昭和54年4月に来日してから早くも1年半の歳月が過ぎようとしています。私が、農業機械を勉強しようと思った動機は、つぎのようなことです。私は、国際協力事業団の試験場で御世話になっていました、与えられた仕事は農業機械の担当でした。私は機械いじりが好きで学問的な原理がわからないまま過ごしていました、そんな矢先に事業団が日本での技術研修生を募集していると聞き応募して無事来日することが出来ました。日本にこれを知った時は言葉では言い表せないほどうれしく思いました。私の研修科目は、農業機械の修理ということでしたが1年間は、熊本県の職業訓練校で自動車整備の勉強をしました。内容については次のようなことです。

午前中は、学科午後からは実技となって、学科については自動車の構造、エンジン工学、エンジン整備、シャシ工学、生産工学、法規、ガス溶接、電気溶接、午後からの実技については、エンジン分解、組立、測定、ガス溶接、電気溶接の基礎実習、それに自動車の車検などを数多く勉強できたことは先生がたの新切な御指導をしていただいたおかげです。又、私が一番うれしかったことは三級整備

士の試験が合格し資格がいただけただけです。

この訓練校も55年の3月いっぱいまで修了し、のこり6ヶ月後期研修は埼玉県上尾市にあるMSK東急機械株式会社で研修をしました。この会社は、外国製の農機具をあつかっている会社で機種は私がバラグアイで取あつかっていたマツセイファーガソントラクターです。トラクターの他に、コンバイン、ベータ、フェラボリ、播種機などいろんな農機具をあつかっています。入社して1ヶ月間は、講義や講習をうけ、2ヶ月目からは、念願のエンジン整備技術、トラクター組立、主としてエンジンオーバーホール、ミッション、油圧ポンプなども専門に勉強しました。又、7月下旬から2週間北海道の美幌支店にコンバインの研修に行ったのは大変勉強になりました。コンバインと云っても私達の国で普及されているコンバインよりもひとまわり大型コンバインで、日本でもこんな大型コンバインが普及されているのかと印象にのこりました。こうして1年半長いようで短かった研修期間、楽しかったこと、苦しかったこと、又、日本で身につけた技術をわすれずいっしょうけんめい頑張りたいと思います。

研修期間中、見守って下さいました、学校の先生、及び、東急機械の技術員の皆様まことにありがとうございました。又、このような機会を与えて下さった国際協力事業団の方々には心からあつくお礼を申し上げます。

## 「前期研修を終えて」

昨年の4月に日本の土をふんで早くも1年が過ぎました。日本に来て不安だった僕も1年間をふりかえって見ますとたのしかったこと、又は苦しかった色々ありました。

僕は熊本県の熊本高等職業訓練校で自動車整備の勉強をしましたが自分が一番苦しかったことは教科書などむずかしい字などが読めなかったことでしたが、一日一日が過ぎてくともとも字も読めるようになり、又先生達のあたたかい御指導により基礎から勉強出来たと云うことはとてもうれしいことと思います。

学校の内容については次のとおりです。

午前8時30分から12時まで学科

1. 自動車の構造
2. エンジン整備
3. 工学一般
4. 生産工学
5. 材 料
6. 法 規

午後13時から16時までは実習となって、自動車の分解・組立・ハツリ・道具の取り扱い方・テストなどの測定・ガス溶接・電気溶接・そして自動車の車検、この様なことを1年間勉強しましてとても僕にとってはためになったと思います。又ガス溶接と電気溶接の資格がとれたことそして国家試験を受けたことがなによりうれしいことだと思えます。これから基礎的知識として後期研修に於いても色々と見聞を広め勉強しようと思えます。

## 「技術研修を終えて」

松 尾 あけみ

1年半前、パラグアイ国から研修生として、日本に着いてから色々な事を学びましたが、もう帰国する日が近かずにいます。去年の4月、成田空港に着いた時はまだ厲寒く私には真冬の様に思えました。あれから、夏、秋、冬、春、そしてもう二度目の秋を日本で迎えながら、私達の研修は終るのですが、この1年半で、自分がずいぶん変わった様な気がします。私の研修目的は、看護婦です。研修先は高知県でした。高知市内の病院で勤務し、当病院の准看護学院に入学し、ここで1年半過ごして来ました。

日本に来る前、約3年ぐらい、フラム診療所に勤めていました。だから簡単と考えていましたが、パラグアイと日本の医学の違いに、ただびっくりするばかりでした。

学院の講義も難かしく、特に漢字の読み書き方、講師の講義を理解したり、又聞いたこともないような、看護用語が、ボンボン飛び出して来るので、覚えるのにたいへんでした。最初は、日本の生活に慣れるのに一生けんめいでした。2～3カ月過ぎると、寮の友達とも冗談も言える様になり、教科書もある程度読める様になり、自分に自信が持てる様になりました。

勤務でも日本の医学の進歩におどろくばかりです、さすが先進国と言われるだけあって、医学もパラグアイよりはるか進んでいます。前期の研修は外来勤務でした。初めに、外科、手術室、小児科、内科と2～3カ月交替で勤務しました。診察の準備、介助したり、注射器の消毒、又ガーゼの再生も私達学生の役目でした。真冬の寒い日に病院の屋上で、ガーゼを再生した事は、忘れられません。

介助の面でも大人と、小児とは、ずいぶん違います。介助がへたであれば診察が進まないとい医師にいわれた事は忘れません。病気の診断にしても、血液検査、X線写真、その他、色々な検査をして、早期に診断されそして治療へと進みますが、看護婦もある程度の病気の症状、又検査の正常値を知らなければ、看護が出来ません。

後期は病棟勤務でした。整形病棟と内科病棟です。整形科と内科とは看護がかんぜんに違いました。



術後の患者特に整形科では介助が難かしいと思います。体位変換をおこなう場合もミスは許されません。何か月間もギブスベットの寝ていなければいけないのが多い手術ばかりで起してしまえば手術は、やり直しです。内科病棟も長年入院生活している患者、又重症の患者、それぞれ看護の仕方が違って来ます。重症の場合の看護記録は医師、看護計画に役立ちます。

又何も話してくれない患者も居ます。看護するにあたっては患者のニーズを心よく受け入れよい看護する事が必要だと分かりました。まだまだ分からない事がいっぱいです。でも日本で学んだ事をパラグアイ国フラム移住地で、活用し、スペイン語の話せはしない一世の日系人、又パラグアイ人達により看護して行きたいと思います。

最後になりましたが、この1年半の間あたたかく見守って下さった国際協力事業団の皆様、細木病院、土佐看護学院の先生方の御協力、御指導に心からお礼申し上げます。

## 「合同研修会に参加して」

合同研修会で私達18名が再会出来たのは日本に来て以来約半年過ぎた10月2日、横浜の海外移住センターに集まりました。

ふりかえって見れば、短い6カ月間ですけど、私にとっては長く感じました。皆に会える日を、あと3カ月、2カ月、と待ちどうしくてしかたありませんでした。この6カ月間、楽しい事、苦しい事、色々とありましたが、全員健康な姿で、あいさつをかわし会える事が出来ました。又8回生の先輩達にも会えましたし、先輩達との意見交換会もあり、先輩達の意見も聞けました。私達にとっては、これからの研修にとても、よいアイデアになりました。特に人間関係、生活費の使い方など、とてもよい勉強になりました。

8回生とは、2日間いっしょで、ボウリングをやったり、夜おそくまで飲んでさわいだ事は、一生忘れられないことでしょう……。4日の朝、8回生と最後のお別れを致しまして、私達は旅行に出発しました。鎌倉、江ノ島、箱根のコースで、鎌倉の長谷の大仏さま、観音様など、この目で見ることが出来ました。次は江ノ島では、ほとんど時間がなく、見物してませんが、こんな小さな島でも人間が住んで居るのかと思い、つくづく日本は、せまい国で人口が多いのだと感じました。江ノ島から小田原を回り箱根に行きました。夕方レイクホテルに着き夕食後、後期研修について、各自研修実績発表がありました。それぞれ研修場所ではつらい事ばかり分かり、私一人じゃないのだな、と思い反省しました。

5日は、ハイキング。連絡線で芦ノ湖を渡りまして、紅葉にはちょっと早かったので残念でしたが、ロープウェイに乗るため約1時間ぐらい歩いたりした事が、とてもよい思い出になりました。

この研修会は、宮崎でおこなわれた、国体に参加する事になっていたのですが、8回生と私達の希

望により、合同研修会になりましたが、国体に行くよりよかったです。9回生が日本に着いた時、出迎えて下さったお礼に、今度私達が、8回生を見送る事が、出来ましたことがうれしく思います。今後もこの様な形の研修会があると、いいと思います。

## 「技術研修を終えて」

重 永 智 平

いよいよ私も第9回研修生として来てもう速い1年半が終ろうとしています。昨年4月成田空港に到着し、アルゼンチン出発前親からはお話を聞いていました事ですが日本と言う国はこんな素晴らしい国とは思っていませんでした。成田空港、東京の町、進んだ国鉄の技術たとえば東京、博多を6時間で走る新幹線、なんと珍しい事がいっぱいでした。この日本が戦争で負けた国とは思影も無かったです。戦後35年の日本、アルゼンチンと比較して見るととてもユフクな国と思いました。

研修については、前期は岡山県立農場試験場で花卉についての研修させて頂きました。岡山へ行った時、何方から見てもモモ、桜らの花が満開いでなんと楽しさ、心の中まで花が咲く気分になりました。又は独身寮の周りはとても静かで広びろとした水田、夜になるとカエルの歌が始まり昔の日本へ帰った気分でした。残念な事に研修が思っていた様に行かず、でも月、日の経つのが速く感じ始め、遠い日本まで来て悩んで居ても解決の無い事だし、1年間イッシュウケンメイ勉強して来ました。今思えば出すと前期は素晴らしい事いっぱい有り、例えば菊、カネーション、ナデシコ、ミヤコワスレ、花木、鉢物などの管理、研究、新しい技術先生方に教えて頂きたき、其の内週に3回岡山農業大学校で講義を聞きに行ったり病害室、化学室などで勉強させて頂いた事も在りました。

バラについては6月25日にカーリーナと言う品種を200本植え取り其の土作り、土壌消毒、管理、出荷まで、病気も良く判る様になりました。研修以外夏には先生方と海へ釣りへ行ったり、冬には鳥取県に在る大山へスキーへも行き、この1年間岡山県立農試の皆様にはとてもお世話様になりました。

昭和55年4月に横浜の海外移住センターで合同研修が在り、10回生とも合う事が出来其の後4月8日後期研修に入りました。後期は神奈川県平塚市の横山ばら園で6ヶ月間お世話様になりました。所は兄弟2人でやく5,000㎡経営し、バラの品種は20以上在りそして毎年オランダから新品种、又は新しい技術なども入れています。私はこの中で毎日の様に忙しい研修でしたが横山さんへ来て次の事学べた気がします。

1. バラの切りつき、台木はトゲナシノイバラ、切りつきは11月～4月中旬まで行ない芽つきの

ばあいは秋、9～10月、そして1年後定植に入ります。

## 2. 定植前の土作り

バラは定植してから長い間花を切りますので日本では特別に土作りを中心に勉強されています。横山さんでは牛フン堆肥を大量入れ其れ以外にワラ、チッソ、リンサン、カリ、マグネシウム肥料を基肥として使い、病気例えば根頭がんしゅ病、ネマートヅ病など居る様子が在ればクロルピクリン、又はジョウキで消毒するシステムも在りました。

## 3. 定植後の芽の仕立

定植後は伸びてくる枝をピンチして木を位立て行くが効率的に木を位立には、品種、苗齢(1年生、2年生)苗質(切りつき、芽つき)定植時期によってピンチの仕方を変える必要が在るそでした。ピンチの種類には表に示す様にソフトピンチ、ハードピンチ、フラウリングアウトピンチの3種類が在るが従来、定植後のピンチにはハードピンチが多く用いられソフトやフラウリングアウトピンチはあまり活用されていなかった。ソフトピンチは枝条の先端部で摘心するので他のピンチよりも1回のピンチで樹高をかなり高くする事が出来る上枝条の未熟な時期にピンチするとピンチ後の芽の伸びも早いのでソフトピンチをくり返すと短期間に木を仕立てあげる事が出来るのでした。

## 4. 剪 定

剪定する時期により冬季剪定と夏季剪定にわけられています。

冬季剪定は、一定期間暖房を切ったあとに完全な休眠状態で行うため剪定そのものについて枝を40～50 cmに切り戻してました。なお、剪定前の低温 期間は平暖地では3週間はぜひ必要で不十分な休眠期間で剪定するとあとの生育が悪いそうです。

夏季剪定はさかんに生育している状態ですので技術的に難しい。夏季せん定にはいろいろの方法が在り、次の様にわけて見ました。

### (a) 一斉剪定

全枝切り戻し

全枝折り曲げ

一部剪定折り曲げ

### (b) 分割剪定

### (c) 漸次切り戻し剪定

一斉剪定の全枝切り戻しは冬季剪定と同じように一斉に出荷するのは得策でない事が多いこのような場合にはピンチを繰り返さず、フラウリングアウトピンチを取り入れるが6～7月に1、2回収穫して9月の採花を休むほうが経営的にみて有利なことが多いそうです。定植が遅れ6月に入ってから植付けた場合には2回目以降ソフトピンチを連用し採花開始期を10月としていた。

ピンチの方法に関係なくピンチすると1～数個の芽が動き始めるのでなるべく早く芽の整理し、品

種にもよるが通常のシコートでは1本に整理し、直径1cm以上の太目のシコートの場合だけ2本としていました。病気については岡山農試で沢山のほうほう、勉強した技術とおなじでした。

最後に日本では油が不足している事で神奈川県では省エネルギー対策でいろいろ研究されて温室に一層、二層、三層と内張りして暖房の方針をかえたりしていました。

此の1年半の研修期間私にとっては取も良い勉強になり果してアルゼンチンへ帰国後何れだけの仕事出来るのかまだまだ研究する事が沢山在ると思います。日本で勉強させて頂いた1年半、国際協力事業団、岡山県立農業試験場、神奈川県の横山さん、平塚市バラ組合、神奈川県立農業試験場の皆様との思い出、お世話様になった事、一生忘れないでしょう。心から厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 「合同研修会を終えて」

日本全国に散らばって居る第9回研修生と去る8月5日～9日の間に渡って石川県能登半島で飲み合わせる事が出来なんと楽しみにしていた日がヤット来ました。僕は東海で研修されて居る4人で5日の朝東京駅から新幹線で米原まで行き、其の時は北陸本線で金沢、なんとこの長い旅日本も広く感じました。それとどこまで行っても便利の良い国にはおどろき、どこへ行っても親切な人、やっぱり日本へ居る気がしました。田、山、トンネル、アルゼンチンではとても見れない旅行でした。

5日の夜は金沢市内に在るホテル坂で1泊し、其の夜は研修生18人が集まったからだと思いますが北国新聞のインタビューが在り、写真など写し僕たちも一角上がった気分です。この日は朝2時まで騒ぎポルトガール、スペイン語などが皆なの口から割れる様うに出っていました。

6日の朝9時、金沢市内見学兼六園、昔の物沢山在りました。兼六園は日本三大公園とも言うそうです。岡山の後樂園、水戸の偕楽園、歴史に残された物など沢山在り、おなじく金沢城、今は石川県立大学になっていましたが、尾山神社にも行き、明治時代の前田利家を奉ってあった。午後は能登半島中島へ出発。能登半島の海浜道路を通り、能登の西になると思いますが海はとても美しくてあの爽やかな波、爽やかな風、目の前に在りながら僕たちは中島を目ざして進み、人々は気持ち良さそうに海へ入ったり、砂の上で遊んだりしていました。午後5時北陸婦人青少年センターへ着き、6、7、8日と能登半島の皆様にお世話様になりました。

7日の朝7時センターからマイクロバスで能登半島1周目として出発、10時に輪島に着き、日本でも有名なハン、オワンなど沢山在りどちら見ても欲しい物ばかりでした。輪島から海岸通りを通り千枚田、時国家、軍艦島、恋路海岸、九十九湾など見学しながらセンターへ帰りました。今思い出すと日本海ほど美しい海生れて初めて見ました。

8日は中島で皆々と過ごし最後の日なの日なのでサッカーや海たりして遊び、夜になると砂の上で歌

を歌ったりして終わりました。

9日の朝6時から研修生は研修先へ出発していました。東海の4人組は8時ごろから能登中島駅へ行き帰りは金沢、富山、直江津、そして長野で9日の夜は旅館へ泊まり10日の昼まで長野市内見学して午後1時に上野目ざして出発しました。

今あの時の事思い出すとあの能登半島の美しい海、生れて始めて見ました。波の音、風の音、心に当る様うな気持ちでした。

この8月の合同研修会、事業団の御蔭で石川県、金沢、能登半島行けた事、心から礼申し上げた事ありがとうございます。僕は日本と暮る国は人間、ビル、車、毎日忙しい国とと思っていましたが、西、北の方へ行くとなんと昔しの物と言いますか思い出が沢山在り、とても裕福でシヤワセな国と思っていました。

## 「技術研修を終えて」

長 嶺 マリオ

国際協力事業団の第9回子弟技術研修生として来日する事前まで日本の事についてはどこの国でも見られる映画や本、又はラジオのニュース等そして親の話を聞き、技術や産業が発達し社会や経済そして政治的にも安定していて理想的な素晴らしい国だと想像していました。

母国の町を歩いて家電屋さんをのぞいても道路を走っている車を見てもナショナルとかソニー又はトヨタとかニッサンと日本でも評判のあるマークの製品が多く目に付きこれだけの品物を地球の真裏まで輸出する日本の社会は僕らが映画や本で見ても想像するよりもすごいものだと思っていましたが、実際内部では住宅やら、欧米だけの問題だと思っていた国家公務員の買収等難しい問題もある様です。正に日本のことわざの通り「百聞一見に如かず」ですね。

私達研修生が乗船した飛行機が成田空港へ着陸した後税関を通過して横浜の海外移住センターへ着く間に見た空港内そして高速道路の設備の良いのには驚きました。“Seeing is believing”（見ることは信ずることなり）。ことわざのごとくこの1年半の研修を通して日本の習慣や日常生活等そして表面的ながらも日本の発展ぶりを自分の身でもって確かめることができました。その結果来日事前想像していた日本は頭から消え現実を体験していると言うことです。外観を見て素晴らしいと言う様な甘いものではなく厳しいものです。

さて私が専攻した研修は電気の技術です。職業訓練校で行いました電気科での1年間の研修を要約すると次の通りです。

1. 電気に関する基礎理論：オームの法則，直流・交流回路，電気方式
2. 配電理論と配線設計：電気方式による電力損失，変圧器の結線と出力，開閉器，分岐回路，電動幹線等の設計。
3. 機器材料：電気設備に使用する機械器具等の材料。
4. 施工法：工事の正しい方法進め方
5. 一般電気工作物の検査：工事を行なった後にその回路が安全に使える様行い検査
6. 配線図：電気図記号の書き方読み方
7. 一般電気工作物の保安に関する法令：(a)電気事業法，(b)電気工事士法，(c)電気工事業法，(d)電気用品取締法

そのほかに電力を売る電力会社の地域別にその会社の内線規定があり電気の保安に関する法令はかなり厳しくとても良い勉強になりました。それから実習に入る前の準備運動はレースで走る車がエンジンを暖めるのと同じくとても良かったと思う。今後もずっと続けてもらいたいと思います。この研修期間でただ一つだけ今だに理解に悩んでいるのは職業訓練校電気科の訓練方針です。「職業訓練校」とその名が示している通り本来は暮らしてゆくためにする仕事-技術を訓練するのが使命だと思いますが私には電気工事士受験校にしか感じられませんでした。日本の取場で免許制度が重要視されているためそれに対応する方針とも思いますがそれにしてもきついものです。

後半の半年間は今まで学んだ理論を現場で応用するため内線規定の最っとも厳しいと言われている東京での研修を希望しました。受入れてもらった機関は自分が希望した以上に小さな会社で限られた範囲の理論応用しかできません。しかし技術-商売のつながりに関しては良い勉強になりました。それからこの実地研修で仕事をやりながら感じたことは電気技術基準や内線規定で細かい規定がいっぱい隠されていて本来なら保安上最高の施工を行うものですが実際は検査を合格する最低限の規定しか守られていないと言うことです。電気工事業者の競争が激しい都会ではやむを得ないと言ってしまうかもしれませんが、工事単価を下げて数をこなし工事の方で手を抜き損を補うと言うのも一つの商売法だと思います。

どうやら自分の研修期間中の批判をする様な文になりましたが何も悪気があってのことではありません。私が見たこと感じたことを卒直に述べたまでです。こう言う結果になったのも自分の努力が足りなかったことにも一件あり反省したいと思います。がそれで事が済む訳ではなく批判を生んだ方にもなんらかの欠乏があるんじゃないかと思う。従って現文を読んで腹が立つ様なことがあればその前に熟考してもらいたいと思います。

今研修を可能にして下さった国際協力事業団，各研修受入れ機関の皆様，日系人留学生又は研修生の親善に務めておられる日系人協会そして色々な施設の見学を提供して下さい下さった皆様のお蔭で無事に研修を終えた上日本社会の観察そして良い思い出も沢山作ることができました。それに未熟ながらも

その感情を文書で表せる感な語力もつきました。この様な機会を下された皆様方に今後も末長く良き御指導を願うと共に心からお礼の言葉を申し上げます。どうもありがとうございました。

## 「日本の印象」

ボ国と距離的には地球の背中合わせと背りふりに離れていても、日本人の家庭に育ち少しは日本語も話せて日本人の習慣もある僕に取って、辛いに悪い人とは出合わなく周囲の親切な人達と話している時や、日曜日も休みをしないでいねいに畑の手入れをしているお百姓さんを見てますと、農民の忙しさと言うのはどこへ行っても同じだと思いきなり外国へ来たという感じはしません。「悪い人はこの世には存在しない、存在するのは無知な人間だ」とソクラテスが言ったように無学文盲者2%という日本にそり悪い人がいるはずはない。

しかし頭を上げて回りを見ますと市外では家に囲まれた小さいな畑で1本1本の木をていねいに手入れをしている人がいてその近くにはいくつものエントツから黒い煙を立てる工場、そして浜では汚れているが神のほろを見ると真っ青な果てしない海がある。市内では右むいても左むいてもビルで、道路は車であふれ大ぜいの人が皆忙しそりにセッセと歩いている。日本では全先進国で使用されている安くて早い鉄道がビルの地下を空間を蕩尽することなく通っている。

こう言った大ぜいの人の動きを見ていますと皆機械のように正確に動いていて、その中で油の足りない歯車がかみ合っているような冷たきを感じさせるような人も見られる。最つとも驚いたのは、中学の時から平均睡眠時間4時間を取り学校だけでは足りず塾へも通って勉強していると言うことである。

こういう学生生活、社会状況そして青く果てしない海を見てみると、世界でも優れた技術は持ち今では世界一の経済国といわれている日本に来ているんだと感じる次第です。この国で自分の希望した技術の研修が受けられることは、「舞<sup>5</sup>に入つては郷に従え」でとてもやりがえがあつて幸運に思っています。

## 「技術研修を終えて」

具志堅 るり子

昭和55年9月ボリア国から家族、友達に頭張つて来てね！と見送られ、考えれば西も東も知らなかった日本国に来て早1年半となります。

沖縄那覇の街に生まれた那覇高等看護専修学校に看護学生として入学式を迎えました。日本語でさえ自分の考がえを相手に伝えるだけでも精一杯だったうえ、いきなり専門の教科書を受け取りショックを受け1ページ、1ページをめくっていく、読めない漢字で一杯でした。

講義を聞いていてもつい頭の中は別の事を考がえてしまう。字はくずし字でうつすことさえも出来ない。こんな毎日が続くなんて自分自身つらい思いをして行くだけでした。

これからたいへんだ頭張らなくちゃ、自分に誓い聞かせた。少なくとも1日1字の漢字を覚えるように努力しました。6カ月間続いた事はまちがいないと思います。テストの時は朝2～3時にかかわらず1字1字、辞典を引いて理解するのに苦心しました。

那覇高等看護専修学校に入学して6カ月、まちにまった敷留式がクラスの皆さんと迎える事が出来ました。白衣とキャップを身につけた自分の姿を見て責任のもてる看護婦、プライバシーの守れる看護婦になろうと決心しました。

午前中は大病院第一病院で勤務をして午後は学校へ行っています。

病院で白衣を着て看護婦の事について何も知らなかった私には、患者さんと会う事がつらかったのです。「看護婦さん今の薬は何の薬なの?」と、ある患者さんに聞かれました。この薬はね?おばあちゃんの病気を治すための薬ですよと、答えました。しかし、おばあちゃんの知りたかった事は体のどこに気くのかをたずねているのに間違がいなかったと思います。しかし、私にとってはこれだけの事を答えるだけでも精一杯でした。

1日も早く先輩のように1人前の看護婦さんになり苦しい、悲しい思をしてしる患者さんに何んでもやってみたいなあーとなんべんも思ったことがあります。

6カ月間外来での勤務は終り、次は外科病棟で勤務する事になりました。

病室では約50人の患者さんが入院をしています。病室へ行けば一番大切なのは患者さんとのコミュニケーションです。

私達の仕事と言えば患者さんの立場になって考がえる事です。病院生活を送っている人達はきっと精神的、社会的、肉体的不安な気持で一杯だと思います。

いろいろな患者さんと接しているうちになん度も壁にぶかかりました。その時、看護婦っていったいなんだろうと考がえました。

看護婦とは文字どおり「みまもる」ことだと思います。患者の体をみまもるのは当然です。ただそれだけでは看護婦とはいえません。患者の体とあわせてその心をみまもる事が大切なのです。

患者さんに希望をあたえかわいた心を暖かくするのが看護婦の仕事だと思います。患者さんから受けとった「ありがとう、看護婦さん」の一言は私にとって勇気と希望をとりもどしてくれました。言葉にして表現の出来ない喜びです。

看護婦って、たいへん気苦労な仕事です。日本に来て、いろいろと勉強出来た事はたいへんうれし



いです。日本国でもたくさんのお友達が出来ました。宿題、レポート友達といっしょにやり友達でどんなにだいじである事かを知りました。私にとって真の友達を得ることがこの上もない人生の幸福なことだと思います。

技術研修もそろそろ終わろうとしている所ですが、明日と誓う日はこれから来るのですきのりと誓う日はもう二度とこないのです。毎日毎日、二度はやってこない非常に大切な1日を悔いのない1日であったと思います。

国際協力事業団のおかげでこのような看護婦の勉強ができたと同時にたくさんの言葉をおぼえる事が出来ました。

大浜第一病院の先生方、ならびに看護婦さん、教務の先生方にあつくお礼を申し上げます。

人のできないことを経験させてくれた国際協力事業団の皆様とても喜んでいきます。

責任もてる看護婦になろうと努力したいと思っています。

## 「日本の印象」

私が、生れたボリビアでは、日本語を話す機会が少なく、日本と比べると語学には、大へんおくれしています。日本で、りっぱな日本語を学び話せるように努力し、日本人達に少しでも日本語力が近づくように、私は一所懸命勉強したいと思っています。

日本の国に来て感じたことは、日本の国は大へんすばらしい所だなあーと思った事です。いろいろと、目にうつる事、すべてボリビアとちがいます。

ここに来て知らない事でいっぱいです。今までの生活、とまったくことなった、日本の生活、習慣、環境に一日もはやくなれて、行きたいと思っています。

日本の海と花との美しさが、とてもすばらしいと思いました。でも道路がせまくて、人口が多いのはびっくりしました。もうすこし道が、広ければ、便利だなあーと思いました。

小さいころからあこがれた日本の国、沖縄・父・母の祖国、私がお話に聞いて、想像したよりは、大きかった。

## 「技術研修を終えて」

米 倉 美 智 也

生後7ヶ月で南米はボリビア国に移住して以来、21年振りに第9回移住者子弟技術研修生として

帰国することが出来た。

昭和54年4月3日成田に着き、海外移住センターで行われた1週間のオリエンテーションも9日  
日終り、研修先及び出身地でもある長崎県で僕の技術研修は始まった。

当時長崎県立長崎高等職業訓練校はすでに入校式は終わっており校内オリエンテーションが行なわれ  
ていた。日本語を余り理解することが出来なかった僕にとっては先生の会話が良く聞きとれず、ただ  
“えらい規則きびしいところに入れられたもんだ”と不安が重なるばかりであった。

54年度から高等訓練課程に変わっていた機械科は(前年までは専修課程だったと先生方は言っている)  
生徒9人で、3人の先生が指導してくれた。前年より生徒数が少ないと先生も言っており、機械  
等も余っていて各人2、3台使い事が出来、少しさみしい面もあったが僕にとっては一番勉強しやす  
い人数のように思えた。教育方は、最初五の感覚で覚えさせ、その後理論と語り方針をとっているよ  
うに思えた。

入校まもなく測定器の読み方、あらゆる工作機械(旋盤、フライス盤、セーパー・ターレース旋盤、  
研削盤、ボール盤、万能工具研削盤etc.)等の操作を習い、旋盤作業が主であった機械科は、工具の  
切れ方一つで作業が左右されるとも言われるもので、その研魔から始まり、機械製図、段付作業、テ  
ーパー削、各種のねじ切り、ローレウス作業、穴くり、はめ合せ、の順に進み、作業内容及び寸法公  
差は、1、0.1、0.01mmの順に目が立つにつれ難しく、きびしくなって来た。前年高等工業高校の機  
械科を一応卒業して来たので復習の面も小くはなかったが、無知な面も多かったので前年の事は棚に  
上げ、最初の一步から始めた。失敗を何度も繰り返しやる気なくしてポリビアに掃りたい事を考えて  
いると“失敗せんば上手にはならんと、ノ”等、先生万の暖かいはげましと猛烈な訓練で54年9月に  
行われた2級技能検定旋盤作業になんとか合格する事が出来た。

試験が終わったとは言え一息つく暇もなく、午前中学科、午後基本実習のカリキュラムで授業が始ま  
り、学科では機械工作法、機械工学、材料力学、機械材料、機械製図、電気工学、等、漢字とのぶつ  
つかり合い及び辞書とのにらみ合いでもあった。到着時事業団の方から“いつまでも外国人顔してあ  
まったれているんじゃないぞ、ノ”の一言を心にかみしめて居るうちに、なんとか教科書も読めるよう  
になり、機械学への知識も幾分広める事が出来た。また基本実習では手仕上げ作業、組立て作業から  
始まり、あらゆる工作機械を使って訓練祭に充り出す製品も作ったものだった。年が明るとともに予  
定どおりNC旋盤が入り、その操作、プログラミング、セッティング、ためし削り等を直接メーカーの  
エスぺシアリストから習う事が出来、その後もNC操作、プログラミング等を練習し、なんとか操作  
出来るようになり、また卒業まぎわには1級の練習もしたものであった。こうして3月15日卒業を  
むかえることが出来ました。

後期研修は同県で諫早市貝津工業団地の長崎県金属協同組合の一社でもある(南秀工社で行った。

当社は、従業員48名の中小企業で三菱重工業、神戸発動機、信和技研の下請け会社で、主に陸用

船用タービンの部品製作の他、陸用プラント用防振器、漁船用ネットオーラ等、専門的に作っていた。

2ヶ月程旋盤を使わせてもらい、そこではジグ、取付具等が多く、いかに生産性を上げるか等見られた。暇をみては、他の工作機械（ミーリング、ラジアルボール盤、正面旋盤）の方へ行きジグ等の働きを見る事が出来、また作業中質問する等ずいぶん迷惑をかけたものです。残りの4ヶ月は、アーク溶接を始め、炭酸ガスアーク溶接、ガス溶接、手動・半自動・全自動（トレーサ）ガス切断を習い、溶接に関しても幾分知識を広めることが出来ました。

振り返れば1年半と昔う月日が過去ろうとしている事がうそのように思える。楽しかった事よりつらかった事、悲しかった事、くやしかった事、みじめだった事の方が多様です。でも僕にとっては、いい体験でもありいい人生勉強でもあった。これらは良い思い出として心に残ると思います。

今後、この研修で身に付けた事を基礎として次の壁に当たって行きたいと思う。

最後にこの18ヶ月の技術研修をさせて下さった国際協力事業団、暖かく御指導下さった訓練校の先生方、秀工社の皆様から感謝致します。

ほんとうに有難うございました。／

## 「前期研修を終えて」

月日が過ぎ去るのも早いもので、来日以来2度目の桜狩りで前期研修を終えることが出来ました。

昭和54年4月9日、僕は長崎県立長崎高等職業訓練校に入校（入校式には出席出来ませんでした）、今振り返って見ると毎日の行いさえ翌日忘れる程のいそがしさでした。

今年（54年）から、高等訓練課程になった（前年までは普通訓練課程）機械科は内容的未完成でしたが、やる気が有る先生方ばかりで、入校すると言わんばかりに54年度技能検定実技試験にそなえての訓練が始まりました。ポリビア国で4年間の高等職業高校機械科を修了してきた僕は何かの機械知識は有りましたが、こちらのように $\frac{1}{100}$ mm という精密な仕事は初体でした。実習時失敗が何度も続く事が有り、やる気なくして帰国したい事をしょんぼり考えていると、失敗せんば上手にゃならんと、等はげまされたことも有りました。9月29日、二級技能検定実技試験を受けるとともに、今度は技能検定学科試験にそなえての勉強が始まり、日本語いわゆる漢字の読み書きが出来なかった私には辞書とのにらみ合いが始まり、初日は1項目読むのに5時間程かけたことも有りました。

昭和55年2月23日に技能照査学科試験を受け二級技能士となった時は嬉しかったものです。いくら試験に合格したからと言え安心するひまもなく訓練内容にも入ってなかった一般のための訓練も受けたものです。でも一番印象的だったのはNC旋盤いわゆる数値制御旋盤でポリビア国では見られないものです。

## 「技術研修を終えて」

深 浦 伸 明

養鶏の防疫、衛生の研修に9期生として、日本の土をふんだのが、79年4月である。前期を福岡県養鶏試験場で研修し、後期の農業経営、農業簿記を、福岡県農業試験場の経営改善研究室にて研修する。前期の防疫、衛生については、その専門の先生について1年間学び、そのかたわら育雛管理、ブロイラー管理、成鶏管理、ウインドレス鶏舎管理、ふ卵舎での実習、解体実習、ウインドレス鶏舎のブロイラー管理などの実習をする。防疫、衛生については、斃死鶏解剖などをすることにより、鶏の、おもな病気の判断ができるようになる。4月から7月迄の4ヶ月間は、おもに育雛鶏についての防疫、衛生、管理などの実習を行なう。ワクチネーションのプログラムのたてかたなどもこの期間に学んだひとつである。ワクチネーションについては、群白痢、マレック病、コクシジウム、鶏痘、家禽コレラ、パラチフス、マイコプラズマ、アスペルギス病(かび性肺炎)、ニューカッスル病、伝染性コリーザ、伝染性気管支炎などを学ぶ。講義は、おもに防疫、衛生についてであった。検査については、ニューカッスルのHI抗体検査、コクシオシストの糞便検査などのいくつかの検査方法を学ぶ。養鶏するにあたりこの育雛期間の良し、悪しが、その後の採卵におよぼす影響が大きい事を見ても育雛には手ぬきを許されないことが分かる。育雛期間にもっとも注意しなければならぬ病気に、呼吸器病と消化器病が有ることもみのが事のできない事実である。私は、5月から9月迄の日本の夏を、とくに注意して勉強してきた。ポリビアの気候に似ているからである。この夏に多く出る病気が、ブロイラー、採卵鶏、育雛鶏をとわず、消化器病、呼吸器病であった。育雛鶏、ブロイラーにない病気で、成鶏(採卵鶏)の性生殖器病が有り、ブロイラーに多いのが脚弱であった。養鶏をするにあたり、鶏の顔を毎日見て廻るのもかかせない大事な仕事だと思った。福岡県養鶏場で行なわれていた試験は下記のようなもので有る。

1. 給餌時間制限によるブロイラーの飼料効率改善。
2. ブロイラーのウインドレス鶏舎における飼養管理技術。
3. ブロイラーの産内能力経済検定。
4. 鶏の組合せ検定。
5. 鶏ふん処理
6. ウインドレス鶏舎における問題点調査
7. 高床式ウインドレス鶏舎における採卵鶏の飼養管理技術体系の確立。
8. 飲水の水質が採卵鶏に及ぼす影響

などであった。私がこの中でもっとも興味があったのは8の飲水の水質が採卵鶏に及ぼす影響と、5の鶏糞処理である。なぜなら水質によっては、折角高価な薬りをあたえても薬りの効果が半減するこ

とがある。5の鶏糞処理も衛生面から見て大切な事で有る。鶏糞のおよぼす、鶏への影響は、はかり知れないものがあり鶏糞は、害虫の住みつくもっとも良い場所でもある。この種鶏場では、鶏糞攪拌施設なるものが有り、乾燥された鶏糞を肥料として販売する。衛生面からも良いし、又収入がある。帰国したら実行してみたいと考えている。防疫、衛生、環境、設備、経営のしっかりした日本でさらに、法定伝染病などは、徹底した、予防対策をとっている。ボリビアのような暑い土地では、なおさらに防疫対策の強化の必要性を感じた。経営にしても同じことが云える。民間養鶏場のデータを見て、経営面については、全く無知であった事を恥に思い、後期に農業経営、農業簿記の研修をする。

後期の農業経営、農業簿記については、福岡県農業試験場の経営改善研究室にて半年間勉強する。農業経営、農業簿記、商業簿記などの本を教科書に学んできた。農業経営については、経営研究室の先生方が週2回農大生に講義をしており、その講義に出席し学び、それにとまって農業簿記の理解につとめた。商業簿記は、簿記の基礎的な知識を得るため、4月から始まった福岡商工会議所主催の商業簿記初級コースに通いだしたのが始まりで、途中で止めるのもおしいので、現在迄通っており、今では上級コースで学んでいる。農業経営の講義内容について、のべると下記事項のようなものであった。

1. 農業経営の近代化
2. 経営能力の重要性
3. 経営組織と主産地の形成
4. 農業労働の特質と労働生産性の向上
5. 農産物の生産費
6. 経営規模
7. 集団生産組織
8. 農産物流通の近代化
9. 農業経営と農村社会

これらすべての日本の農業経営形態が、ボリビアの農業にあてはまるものではないが、考え方の基本は、同じであると思う。商業化の進んだ現在の日本における、経営能力の問題は、近代化され始めた、移住地の農業の問題としても考えなければならぬ事と思う。その為にも、基本となる農業簿記は、大切なものである。後期研修にいたっては、まだ十分に勉強ができておらず、2ヶ月延期している。養鶏の防疫、衛生、後期の農業経営、農業簿記の知識を、己の経営に生かし、少しでも移住地の発展に役立てるのが、帰国後の私の抱負である。

この1年半の、技術研修を無事終了するにあたり、御指導くださいました、福岡県種鶏場、福岡県農業試験場の諸先生方及び、研修を受けさせて頂戴いた、国際協力事業団に深く感謝の意を表します。

## 「合同研修会を終えて」

8月4日、寝台車でゆられながら夜遅くまで米倉君と語りあった。大阪に着いたのが早かったため、京都見学を実行、限られた時間だったこともあり、金閣寺、二条城、東映撮映村等を見学の後、金沢へ向う。それぞれ途中下車し名所を廻ってきたようで、いつもなら夜の3時迄でも語り合い研修仲間も、つかれには勝てなかったと見え、12時にもなると、そそくさと各自、部屋にひきとった。8月6日、兼六園見学、日本三大公園のひとつとされ実に調和のとれた、うつくしい公園であった。金沢城(石川城)をえて尾山神社へ向う。尾山神社は、前田利家公を祭った神社で中程にある建物はさほど他の神社との差はなかったが、正面の建物は、日本古来の建築に西洋の建築をとり入れた、ステンドグラスなどがほどこされたもので、明治維新後の文化の発展がうかがえるすばらしいものがあった。その後で見た武家屋敷も、たたずまいしずかでおちつきがあり、私の目をたのしませてくれた。11時、酪農組合長、原久三郎氏の引率と協力のもと海浜道路をえて千里浜へ出る。日本海のうつくしい海が印象的だった。途中、原久組合長氏の好意により、北陸乳業の工場見学。工場の規模、システム、経営内容などの説明など2時間にわたってして頂き、帰りに牛乳、ヨーグルト、プリンなど土産を頂たくなどの思いもよらぬ接待をうけた。唐島荘に着いたのが午後5時であった。この唐島は現在の韓国から流れ着いた島と云い説からこの唐島の名がつけられたとのことで、この島の部分だけが原生林であることから、うなずける気がした。8月7日奥能登見学、輪島の朝市は、ポリビアのメルカードを思い出させる情景であり、いつになくはしゃいでいる自分がこっけいだった。途中で見た千枚田などは農耕民族日本人の農業に対するしたたかな努力、忍耐力、研究熱心さには、目を見はるものがあった。千枚田をえて時国家を見学。4百年前に改築されたとのことであるが、わらぶきのがっしりした雷国特有の建築は、現代の高層ビル、プレハブ住宅にはない、生活の重みのある、そしてどろくさく、それでいて住む人をくつろがせてくれるものがあった。私は、いろいろのふちに寝そべて、遠い昔の荒武者達が昔しそのままのいろいろを囲み、豪快に高笑いをし、酒をくみかわしている情景を思い浮かべた。軍艦島に着いたのは折よく朝食時間だった。そこで口にしたい鶏なべは実においしく、また機会があったら口にしたい味である。軍艦島では、研修仲間と島をバックに記念撮影をし、恋路海岸をえて、九十九湾を遊覧船で一周する。恋路海岸の名のゆらいとして、引率の西牧氏が、この海岸での昔しある男女のロマンスと悲劇の伝説を語ってくれた。8月8日、研修会が午前中約3時間にわたって行なわれ、5日から7日迄に廻った名所などの解説のほか、終了式の日程、各人の帰国日などについての説明が、研修生担当の西牧氏によって行なわれ、後の残り時間は、自由時間となり、水泳、ポート、サッカーなどをして楽しむ、夜は、研修旅行の総決算とも云えるキャンプファイヤーを催し火を囲み歌った。いつも研究室にとじこもって机に向っている私には、太陽に思いっきりふれたすばらしい研修旅行であった。

## 「技術研修を終えて」

森 崎 エリザベス

私はペルーの三世です。祖父たちは島根県と和歌山県出身。

今まで私はリカルドバルマー大学建築学の1年生でした。しかし、小さい頃からの花の栽培にたいへん興味がありました。

この18ヶ月の間にバラ切花技術を学んできました。去年4月から3月までに神奈川県立農業大学の切花コースで勉強しました。1年間にバラとカーネーションの温室管理の研修しました。農業大学のいろいろ懐かしい思い出があります。朝のラジオ体操（私はなれるまでねむりながら体操をしていました）、夏のキャンプと盆おどり、秋の運動会、冬の雪遊び、さいごに私にいっしょけんめい手伝ってくれた先生。

今年の4月から6月まで農家で研修しました、栗野市の石井バラ園、3ヶ月間でバラの実際にやる技術を勉強しました、苗の作り方、育て方、収穫、出荷、土壌消毒、せん定。

のこりの3ヶ月に神奈川県園芸試験場で今まで学んだことを理解しました。勉強したことは、世界のバラ技術、土の検査、デイシューティング、バラの台木と苗生産。

日本でいちばん感動したことは島根県のおはかまいりです。私の父からいつもそのおはかまの話をききました、だけど自分でこれはふしぎなことと思いましたが、おはかまいりました時に17代のおはかまを見ました。

私は日本にきて、ひじょうによかった気持です、実際に日本の文化を感じることは、いろいろなことをわかるようになりしました。

これから国へ帰って花の勉強をつづけたいと思います。

国際協力事業団にたいへんお世話になりました、どうもありがとうございます。

## 「合同研修会に参加して」

合同研修、おもいだすとあのときにもう一度、もどりたいたいです。ともだちともあい、とてもたのしかった。

わたしたちは、みんな、きょうだいとおなじです。ひとり、ひとりと、げん気にはなしました。みんなの、たのしい日本の、せいかつをききました（ふとっちゃったことも）。

わたしの日本語、じょうずになったといわれました。これは、とてもうれしかったです。

はなしあった中で、せんぱいのけいけんや、アドバイスをきいて、自分のためになりました。

毎日、よるおそくまであつまり、いろいろなことをはなしました。たとえば、日本のいんしょう、日

本のしゃかい、エトセトラです。研修に行く前、ともだちとあって、スペイン語はなせることたのしみにしていました。でも、ふしぎなことに、みんなは日本語ではなすのです。それはざんねんにおもいました。

中華りょうり、みんなたべに行きました。じぎょうだんのじむしょ、せんばいとわたしたち、いろんな国と、としの人があつまった。みんなとてもげん気で、うたをうたいました。とてもよかったです。

スポーツ大会に、ボウリングをしました。かちまけをかながえずに、なかまどうしなごやかなきもちでいっぱいになりました。

えのしま、かまくら、はこねのけしきをみて、とても感動しました。

それぞれの場所で研修しているひとたちと、来年またあいますがどんなひとたちになっているか、わたしは期待しています。そのためには、自分もこれからがんばりたいとおもいます。

## 「技術研修を終えて」

丸山 ロベルト

### 1年半の研修のレポルタジェン

丸山ロベルト、ペルー国、三セイ、生年月日1966年3月23日。54年4月日本へ来ました。日本に来て1年半になりました。来たときは日本語ばわからなくてこまりました。なぜならば、ペルーの日けい人の二セイまでだいたい日本語を話せるけども三セイのばあいはほとんど話すことはできません。

この1年半のあいだはいいべんきょうになりました。熊本県立熊本高等職業訓練校で1年間自動車整備のべんきょうをしました。そして6月間熊本の轉ナガセ電気で自動車の電気かんけいの研修をしました。

その1年間熊本県立熊本高等職業訓練校で自動車整備のじゅぎょうがぜんぜんわかりませんでした。けれども日本語のべんきょうをしてすこしずつわかるようになりました。そしてせんもん語の意味が研修生たちのもんだいです。だから、じゅぎょうのときわからなかったのでじっしゅうのほうにもっときょうみがありました。なぜならば車のぶひんを見たり、ぶんかいやくみたてをしのがもつといいとおもいました。そういうふうに、自動車整備にたいしていろいろなことをまなびました。

54年8月の中ごろ研修りょうこうをしました。そのとき福岡県のニッサンサニー自動車整備工場に行ってきました。そこで見学をして自動車の点検のためにつかわれているいろいろなきかいのせつめい



をしてもらいました。そこで一番おもしろいのはコンピューターをりよりして5ふんのあいだで自動車の点検ができることです。これとあといろいろなことをみて、日本のぎじゅつはすすんでいるとおもいます。

54年10月6日、熊本をたつてよこはまでほかの研修生たちとまたあつまって、そこからはこねへつれて行ってもらいました。そこでいろいろなところをけんぶつしてたのしくすごしました。

この年の12月、下村自動車整備工場で20日間ぐらいこうがいじしゅうりで車のブレーキにかんけいしていろいろまなびました。とてもいい研修でした。

55年4月について熊本特ナガセ電気をつとめました。この会社は熊本で自動車の電気かんけいでは一番大きくてせつびがととのっている会社です。

日本へ来るまえのもくてきは自動車の電気せんもんをべんきょうすることだったのでこの会社にはいって、わたしの一番やりたかったことができたのでまんぞくしています。

この会社の研修についてのべると、

1. セルモーター、ダイナモ、オルタネーターのぶんかい、くみため、しゅうり
2. カーエアコンのとりつけ、ガスもれ、しゅうり
3. カーステレオのとりつけ
4. 自動車の電気けいと点検としゅうり
5. いろいろなテストのつかいかたをせつめいしてもらいました。
6. しゅっちょうしゅうりをしました。
7. 市ないのガソリンスタンドとちいさい整備工場をけんがくして回りました。

この会社の人たちはとてもしんせつでぎじゅつだけではなく社会べんきょうもおしえてくれました。

わたしはベルーへかえって、みなさまのおかげでまなんだことをじっこうするやくそくをします。

## 「石川県のたび」

熊本から金沢市までしんだいしゃで行って、8月5日につきました。S A K Aホテルで9回せいがあつまりました。そこで4日とまって石川県ののと半島のうつくしさを見てまわりました。

そのついた日のばんに、みんないっしょにゆうしょくして2カ月ぶりにまた会うことができたのでかんばいをしました。

そのときいろいろなあたらしい経験をはなしてとてもたのしかったです。

そのつぎの日8月6日あさごはんのあと、金沢市をあるいてまわりました。金沢大学へも行きました。大学は金沢じょうのなかけんせつされています。けんろくえんに行きました。このうつくしい公園は日本で三番目以内に入っています。

おみやまじんじゅにも行きました。そしてぶげやしき、ここは金沢のむかしの町ですから古いたてものを見ることができました。

それから金沢の町をあるいて見てまたホテルにかえりました。そこにのち半島の中島にいくマイクロバスがまっています。のと半島へいくとき、かいひんどうろうとちりはまこうそくどうろうをはして、のりぎょうぎゅうにゅう会社につきました。そこでせいさんのシステムをせつめいしてくれました。

つぎはホクリクふじんせいしょうねんセンターで3日間とまりました。

8月7日あさごはんをすませてからのと半島のゆうめいなところへつれていきました。

そこからつぎのところへ行きました。

わじま町ではあさいちに行つて、なんべいのいちばんにいてると思ひました。

せんまいだてはたんぼやはたけはかいだんのようにつくっています。ペルーのインカていこくのうぎょうもおなじりです。この二つのところを見ながらペルーのことを思ひだした。そこから、わらぶきのいえへいきました。このいえは770ねんまえけんせつされました。おわたにとべとぶんかいてわにも行きました。このぶんかいてわのぼんとうのなまえはみつけどもします。とてもきれいなかいはんです。そして、そこにはめずらしいかたちの小さな島があつて、上だけくさはえています。センターにかえるとき、こいじかいはんとりましたが、ここはのと半島のいちばんきれいなかいはんとおもひます。

つくもわんにも行つてふねにのつてすてきな小さい島を見てまわりました。

てんぼうだいにちよつとよつてきゅうけいして、きれいなけしきを見ることができました。

センターでゆうしょくをしてからはなびをあげたのしみました。

そのつぎの日8月8日あさの8時から10時まで、はっぴょう会がありました。そこで3日間のあいだのこととか行つたきれいなところとか、何をしましたとかはなしあい、日本のれきをきいて、そしてじぶんのくにかえることをせつめいしてもらつた。それをおわつてからプールとかかいはんでおよぎました。そしてボートにものりました。そのばんはゆうしょくしてから、かいはんでたき火をして、うたをうたつたりわらいはなしをしたり、いろいろなことはなしたりとてもたのしかったです。

そのつぎの日8月9日みんなとわかれて、熊本へ向ひました。このみじかい4日間は、みんなといっしょにたのしくて、あとでいいおもいでになりました。



## 子弟研修生一覽表

第1回(昭和46年度)

国名	(推せん支部)	氏名	生年月日 年 令	学 歴 (日本) 学 歴 現地	本籍地または 父親出身地
ド ミ ニ カ	(サントドミンゴ) コンスタンサ	村田千秋	昭和 23.3.14 23才	(小3中退) 中 卒	鹿児島県川内市
ブ	(ベレン) 第2トメアス	武藤義博	17.4.7 29才	(小 卒) 中 卒	福島県会津若松市
ラ	(レシーフェ) クビチエノク	岡本 研次	25.6.14 21才	(小4中退) 高 卒	愛媛県 東宇和郡城内町
ジ	(リオデジャネイロ) フンシャル	池田秀広	27.7.5 19才	(なし) 2世 中 卒	広島県深安郡市村
ル	(サンパウロ) グァタバラ	勝山昭治	25.10.28 20才	(小6中退) 工業学校 SENAI (職業訓練コース)卒	佐賀県唐津市
	(サンパウロ) ピニヤール	山田 豊	23.10.6 22才	(中 卒) 小2修了	福井県武生市
ホ リ ビ ア	(サンタクルス) サンファン	仁田原 豊	23.9.4 23才	(小3中退) 高1中退	福岡県八女郡黒木町
バ ラ グ ア イ	(アスンシオン) エンカルナシオン	安田 孝	12.4.3 34才	(大2中退) な し	秋田県仙北郡協和村
ア ル ゼ ン チ ン	(ブエノスアイレス) ブエノスアイレス州 クアルテル・クアル ト・モレノ	榎本一穂	27.3.26 19才	(なし) 2才 渡航時 中 卒	和歌山県田辺市

## 移住者子弟技術研修生一覧表

研 修 機 関	研 修 内 容
鹿児島県 農村センター 高等部園芸科	そ栽培、午前中講義受講、午後除草、消毒、出荷等実習。研修旅行（ヤンマー長浜研究所で3日間農業用エンジン分解・組立実習、長野県営伝中央農場、京都タキイ種苗見学）。
福島県立 農業短期大学 協同組合科	農業経済、農業簿記、農協原論、農協経営論、農業法規、農業機械等講義受講。研修旅行（静岡県三ヶ日農協他2ヶ所）。県内湯野農協等で実習。
愛媛県 果樹試験場南予分場	講義～落葉果樹、病虫害防除、土壌肥料、柑橘栽培等。 実習～夏柑採果、除草、薬剤散布、落果調査等。 落葉果樹研修。
広島県立 西条農業高等学校 広島県食品工業試験場	果物の成分検査、イチゴジャム、ママレードの加工実習、トラクター運転実習。工場見学（三島食品）7/26～8/31県食品工業試験場で研修（農産物加工製造技術および同分析法の課程終了）
佐賀県 養鶏試験場	養鶏経営（衛生、繁殖、育種等）を中心とした講義受講。解体、飼料配合等の実習。全販連佐賀種鶏場における雛卵舎、育雛舎、初理解体等の場外実習。
福井県 農業後継者センター 本科畜産専攻	乳牛飼育について午前中講義、午後実習。5/24から1ヶ月間農家実習（乳牛） 7/19～24第2回全国農村青少年研修交換大会（於 八ヶ岳）に参加。
福岡県 種 鶏 場	衛生面を主体に育雛管理、防疫、解剖等の実習。飼料、設備、交配等専門的分野の講義受講。9月より2ヶ月間民間養鶏場で実習（飼育管理の実際、販売流通システム等）。
秋田県立 金足農業高等学校 農協専攻科	農協法、農業経済、簿記等講義受講。7/23～29県経済連で各支部実習。金浦農協等県内農協で実習。8/10～13埼玉県川口市内で農業研修
和歌山県 農業大学校 園芸科花卉部門	農業経営、果樹、作物、畜産、農業機械等講義受講。 サルビア、マリーゴールド、ペコニア等の育苗、定植その他の花卉実習。

第2回(昭和47年度)

国名	地区	氏名	生年月日 (年齢)	渡就 年月日	(日本) 学歴 現地	本籍地または 父親出身地
ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ市 バブカイヤ地区	横山 覚	S. 29.5.16 (18)	2世	( - ) 中卒	(父) 福島
	サン・パウロ州 ジャカレイ移住地	山上 としこ	26.12.6 (21)	S. 40.8	(中3中退) 中1中退	愛 媛
ブラジル	サン・パウロ州 桜植民地	佐藤 良洋	25.5.26 (22)	38.1	(中1中退) ( - )	北 海 道
	アマゾナス州 マナウス市	石沢 力雄	22.8.9 (25)	29.4	( - ) 商高卒	山 形
ブラジル	ベルナンブーコ州 リオ・ボニート入植地	森村 正隆	17.10.11 (29)	31.7	(中2中退)	群 馬
	サンタ・カリーナ州 ラーモス移住地	日浦 秀雄	20.10.19 (26)	37.10	(中退)	北 海 道
ブラジル	イタプア県 フラム移住地	久岡 寛	16.6.19 (31)	33.7	(高1修了) 小4修了	高 知
	サンタ・クルース県 オキナワ オキナワ第3移住地	久高 将行	24.8.3 (24)	36	(小6中退) 高卒	沖 縄
ドミニカ	ベラビア県 バニー地区	藤川 求	22.12.13 (23)	32.10	(小4中退) 高2在中	愛 媛

## 移住者子弟技術研修生一覧表

研 修 機 関	主 な 研 修 内 容
福島県立  小高農業高等学校	野菜・園芸・農学一般
堺市養鶏農業協同組合	畜産（ブロイラ養鶏）
神奈川県立  農業大学校別科	花・果樹
座王ハム有限公司	畜産加工（ハム・ソーセージ）
群馬県畜産試験場	野菜・畜産
長野県園芸試験場	果樹（リンゴ）
群馬県立  農業大学校蚕業学校	養 蚕
三井物産㈱大阪支店  原棉糸織物部綿花課	① 綿花事情 ② 綿花格付士資格取得 （アメリカ）
雇用促進事業団  愛媛総合高等職業訓練校	農業機械修理



### 第3回移住者子弟

国名	地区名	氏名	年齢	性別	渡航月日	渡航時 年齢
ブラジル国	ノガフリブルゴ	野口忠義	24	男	昭和32年3月	8才
同上	ガタラ	設楽新作	23	男	" 38年7月	13"
同上	日光	佐々木哲朗	23	男	" 34年2月	8"
同上	ノガムノト	大塚 虎	22	男	" 32年8月	6"
同上	第2トメアス	西田 潜	21	男	" 41年2月	14"
同上	サノタレノ	千葉京子	23	女	" 29年12月	5"
同上	クビチエック	東 春好	20	男	" 35年3月	7"
同上	イガチ	三輪 新太郎	22	男	" 29年11月	3"
ハラグアイ国	アルトハラナ	永井儀昭	28	男	" 36年4月	16"
同上	イグアス	渡辺 準一	20	男	" 42年6月	14"
同上	アマノハイ	岡本儀彦	25	男	" 33年8月	10"
アルゼンチン国	カルアヘー	小野達朗	24	男	" 36年4月	12"
ホリビア国	オキナワ第1	根間玄真	25	男	" 29年7月	6"
同上	サノフアノ	長谷研詞	22	男	" 30年5月	4"
トミニカ国	ビセノテノーフレ	鈴木 雅	23	男	" 33年5月	9"

## 技術研修生一覽表

本籍地	研修科目	研 修 先
北海道	花 卉	神奈川県立農業大学校 (48.4 ~ 49.3)
		(篤農家) 大沢春吉 (49.4 ~ 49.9)
茨 城	養 蚕	群馬県蚕業試験場 (48.4 ~ 49.9)
愛 媛	養 蚕	同 上
徳 島	農 協 留 易	徳島県農協中堅職員養成所 (48.4 ~ 48.7)
		徳島県石井町農業協同組合 (48.8 ~ 48.11)
		大洋漁業㈱ 貿易第2部 (48.12 ~ 49.9)
宮 崎	農業機械	農林省農業技術研修館 (48.4 ~ 49.3)
		茨城イセキ販売㈱ほか (49.4 ~ 49.9)
宮 城	農産加工	宮城県立上沼農校実習部 (48.4 ~ 48.11)
		清水市農業協同組合 (48.12 ~ 49.3)
長 崎	花 卉	長崎県総合農林センター (48.4 ~ 48.9)
		長崎県大村果樹試験場 (48.10 ~ 49.9)
静 岡	果 樹	山梨県果樹試験場 (48.4 ~ 49.3)
		(篤農家) 内田金之助 (49.4 ~ 49.9)
愛 媛	畜 産	農林省十勝種畜牧場 (48.4 ~ 48.11)
		群馬県畜産試験場 (48.12 ~ 49.9)
福 岡	畜 産	農林省十勝種畜牧場 (48.4 ~ 48.11)
		埼玉種畜牧場 (48.12 ~ 49.9)
兵 庫	農 協	兵庫専修職業訓練校 (48.4 ~ 49.3)
		兵庫県姫路農業協同組合 (49.4 ~ 49.9)
宮 崎	果 樹	宮城県立農業大学校 (48.4 ~ 48.10)
		長崎県大村果樹試験場 (48.11 ~ 49.3)
		農林省園芸試験場、興津支場 (49.4 ~ 49.9)
沖 縄	農 協 留 易	宮城県立農協講習所 (48.4 ~ 49.3)
		兼松江商㈱ (49.4 ~ 49.9)
長 崎	農業機械	農林省農業技術研修館 (48.4 ~ 49.3)
		イセキ・カワサキサービス販売㈱ (49.4 ~ 49.9)
愛 知	果 樹	愛知県農業総合試験場 (48.4 ~ 49.9)

第4回移住者子弟技術研修生

地 区	氏 名	研修職種	研 修 機 関 名
リオ・デ・ジャネイロ イタグアイ	岡崎ソニア・マリア (26才)	花 卉	㈱赤塚植物園
サンパウロ グアタバラ	渡 辺 一 寛 (25才)	養 鶏	茨城県養鶏試験場
サンパウロ 日 光	中 村 弘 (27才)	養 蚕	群馬県蚕業試験場
サンパウロ ピニヤール	深 沢 裕 夫 (23才)	果 樹	山梨県果樹試験場
サンパウロ バルゼア・アレグレ	西 山 立 美 (20才)	農 産 加 工	山口県経済農業協同組合連合会 山口加工場
ベレーン モンテ・アレグレ	高 谷 和 夫 (26才)	牧 畜	福岡県種畜場
ベレーン マナウス	出 田 洋 次 (24才)	自動車整備	熊本県専修職業訓練校
ベレーン アカラ	細 越 卓 美 (21才)	"	東京都江戸川高等職業訓練校
レシーフェ クビチェック	竹 並 明 弘 (21才)	柑 橘	福岡県園芸試験場
レシーフェ クビチェック	神 田 晃 晃 (19才)	"	"
ポルト・アレグレ イタチ	官 崎 信 輔 (28才)	果 樹	熊本県果樹試験場
アスンシオン フラム	渡 辺 保 夫 (23才)	農 協	広島県農業協同組合研修センター
アスンシオン アマンバイ	原 本 功 (26才)	"	高知県大方農業協同組合
アスンシオン アスンシオン	堤 田 元 克 (22才)	果 樹	山梨県果樹試験場
ブエノス・アイレス アンデス	米 俣 也 (21才)	"	"
ブエノス・アイレス ガルアペー	植 松 吉 巻 (24才)	"	農林省果樹試験場 興津支場
サンタ・クルース オキナワ	平 良 賢 次 (27才)	農 協	福岡県農業協同組合講習所
サンタ・クルース サンフアン	藤 井 恒 正 (26才)	"	"
サンタ・クルース オキナワ	幸 地 哲 雄 (23才)	"	"
サント・ドミンゴ ハラバコア	福 永 正 彦 (26才)	農業機械	佐賀県農業研修学園

## 研修機関一覧表

郵便番号	所在地	電話番号	備考
514-22	三重県津市高野尾町	(0592) 26-2851	代表取締役： 赤塚充良
311-31	東茨城郡茨城町大字小幡字栗林320の3	(02929) 2-1133	場長： 吉田賢
371	前橋市総社町総社2326の2	(0272) 51-5145	場長： 宮沢鉄雄
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	場長： 大野俊雄
759-11	山口市仁保下郷第1771	(08392) 7-0111	会長：滝口純 工場長：村本伊雄
838-01	小郡市北中尾4839の7	(09427) 2-2128	場長： 尾高從宣
861-41	熊本市御幸苗田町375	(0933) 64-1217	校長： 有働安則
132	都内江戸川区中央2-31-27	(03) 653-1221	校長： 鈴木興一
814	福岡市南区大字柏原571	(092) 55-1861	場長： 小原 勉
"	"	"	"
861-53	鹿嶋郡河内町船津	(096300) 24	場長： 西田久仁徳
730	広島市牛田町早稲田	(0822) 22-5262	所長： 大田 照 亮
789-19	高知県幡豆郡大方町		町長：小野川俊二 組合長：長野正季
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	場長： 大野俊雄
"	"	"	"
424-02	清水市興津中町	(0543) 69-2111	支場長：千野知長 場長：佐藤公一
813	福岡市東区大字名島字沙見2751の38	(092) 68-0304	所長： 原 田 猛
"	"	"	"
"	"	"	"
840-22	佐賀郡川副町南里	(09524) 5-2145	園長： 吉 岡 充 男

第5回移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修希望職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ					
ブラジリア	大城竹幸	23	沖縄	観葉鉢物	第一園芸KK富士園芸研修学校
サンパウロ					
日 光	有田和人	28	愛知	果樹園芸	山梨県果樹試験場
ビニヤール	広瀬昭憲	22	福井	農業機械	福井県農業試験場
ムンドノーボ	田中愛	18	秋田	生活改善	秋田県農業短期大学
グアタバラ	小林武久	19	長野	畜産(養豚)	長野県畜産試験場
日 光	中村清	25	三重	養 鶏	三重県農業経営大学校
ベレーン					
第2トメアス	平水繁	26	宮崎	畜産(牧畜)	熊本県草地畜産高等研修所
"	遠藤憲一	27	福島	"	福島県畜産試験場
トレーゼテンプロ	須藤毅	21	福島	自動車整備	仙台高等職業訓練校
レシーフェ					
サルパドール	吉井丈治	19	千葉	畜産(牧畜)	群馬県畜産試験場
ポルト・アレグレ					
ラームス	鈴木等	24	北海道	果 樹	長野県園芸試験場
アスン・シオン					
イグアス	関節朗	20	群馬	養 蚕	群馬県蚕業試験場
アルト・パラナ	工藤則吉	23	岩手	旋盤・電気溶接	盛岡専修職業訓練校
アマンバイ	下元 政	22	高知	畜 産	群馬県畜産試験場
ブエノス・アイレス					
ガルアペー	水野悦郎	24	長野	柑 橘	静岡県柑橘果樹試験場
ウルキツサ	西田 孝	18	長崎	花卉(メーコン)	長崎県総合農林試験場
サンタ・クルース					
サンフアン	牧尾孝司	19	長崎	畜産(牧畜)	長崎県畜産試験場
オキナワ	宮城邦夫	22	沖縄	"	"
"	池原正英	21	"	"	"

研修生研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
410-13	静岡県駿東郡小山町上野字下ノ原1101	佐藤正司	0550-6-0645
405	山梨市万力1530	大野俊雄	05532-2-1921
910	福井市寮町辺線52-22	石田慶一郎	0776-24-5100
010-04	南秋田郡人形村	佐藤健吉	018545-2026
399-07	長野市塩尻大字片丘10847	久保田建御	02635-2-1186
515-22	一志郡増野町川北	竹内博	059844-2-1258
869-23	阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	寺本一人	09673-2-1231
960-21	福島市荒井字地藏原甲18	吉田武紀	024504-4
983	仙台市田子字寺1	鈴木正雄	0222-58-1151
571-01	勢多郡富士見村小萩2425	大正直	027288-2222
382	須坂市大字小河原492	広瀬健吉	02624-5-0295
371	前橋市総社町総社2326-2	宮沢鉄雄	0272-51-5145
	盛岡市南仙北3-10-40	外岡九郎	0196-36-1706
571-01	勢多郡富士見村小萩2425	大江正直	027288-2222
424	清水市駒越2712	中間和光	0543-34-5351
854	諫早市貝津町3118	高木睦夫	09572-2-3330
859	南高来郡有明町湯江丁3600	宮島良明	0957605-516
859	"	"	"
859	"	"	"

第6回移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名
(リオ・デ・ジャネイロ)	イタグアイ 畠山幸枝	26	(石川)	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
(サンパウロ)	モジダス・クルーゼ 米村隆一	20	(熊本)	花卉園芸	熊本県農業試験場園芸支場
	ロンドリーナ近郊 大塚由起子	25	熊本	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
	グアタバラ 高橋定次郎	26	山形	畜産	山形県立農業経営大学校
	日光 竹田和夫	27	高知	農業機械	神奈川県農業大学校
(ベレーン)	グアマ 米川洋二	27	熊本	畜産	安達養鶏場
	ベラピスタ 喜納清美	21	(大分)	農業機械	北海道フォードトラクター協
	第2トメアスー 四元敏夫	24	宮崎	農業機械	北海道立中央農業試験場
(レシフェ)	レシフェ近郊 岩田健一	25	(長野)	畜産	千葉県畜産センター
(ポルト・アレグレ)	ラーモス 桑原正行	29	長崎	花卉園芸	北山兄弟バラ園
(アスンシオン)	イグアス 公文茂男	25	高知	畜産	岡崎牧場
	アルト・バラナ 篠藤喜男	23	愛媛	農協業務	愛媛県農業協同組合研修所
	アマンバイ 岡本孫幸	25	兵庫	生活改善	日本高等国民学校
(フェノス・アイレス)	ウルキンサ 橋本敬之	29	福岡	花卉園芸	花卉栽培農家
	" 木村茂	24	群馬	花卉園芸	群馬県園芸試験場
(サンタ・クルス)	サンフアン 畑原等	25	長崎	農業機械	岩見沢機械センター協
	" 吉永末広	24	長崎	農協業務	川副農業協同組合
	オキナワ 山城博明	21	沖縄	畜産	沖縄県家畜衛生試験場

研修生研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
980	宮城県仙台市春田町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
861-11	熊本県菊池郡西台志町須屋2450	小林研二	09624-2-0167
980	宮城県仙台市春田町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
996	山形県新庄市大字角沢1336	新関信一郎	02352-2-1521
243-04	神奈川県厚木市杉久保2006	相模南久	0462-21-5274
861-01	熊本県鹿本郡植木町岩野927	安達 誠	09627-2-0359
078-02	旭川市永山三条6丁目64番地	島 尊 達 雄	0166-48-1101
069-13	北海道夕張郡長沼町東六線北15	島崎佳郎	01238-9-2311
289-11	千葉県印旛郡八街町滝台	鹿岡義之	0472-95-4511
	アメリカ合衆国カリフォルニア州コンロンティ	Ted 北山	
780	高知県高知市円行寺169	長崎正英	0888-72-9496
791-31	愛媛県伊予郡松前町西高柳	岡田慎吾	08998-4-2243
319-03	茨城県東茨城郡内原町内原1497	加藤 彌彦	029259-2003
834	福岡県八女市大字忠見384	藤田 恵	09432-2-4635
379-22	群馬県佐波郡東村大字西小保方493	中村吉男	02706-2-1021
068	北海道岩見沢市四条15丁目3番地	渡辺 一 一	01262-2-4421
840-22	佐賀県佐賀郡川崎町大字鹿江2304	大坪 平	09524-5-5111
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515



第7回移住者子弟技術研修生

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名	
リオ・デ・ジャネイロ	バルバセーナ	市来清文	27	宮崎	花卉園芸	英香園
サンパウロ	ロンドリーナ	高橋昇ジュリオ	27	(北海道)	養蚕	群馬県蚕業試験場
	イタベチ	土生誠一	26	宮城	花卉園芸	株式会社小池硝子店
	サンパウロ	樋口寛	26	熊本	建築施工	戸田建設株式会社
	"	服部ロウレンソ	23	(秋田)	電話交換機工事	日本通信建設株式会社
	スザノ	上西川 猛	29	鹿児島	自動車修理	千葉トヨタ自動車株式会社
ベレーン	サンタ・イザベル	三宅正剛	24	長崎	自動車修理	長崎県交通局中央自動車整備工場
	ポルト・ベリヨ	服部元	26	東京	農協経理	熊本県信用農業協同組合連合会
レンフェ	サルバドール	子田繁実	22	長野	電気工事	有限会社 梅本電設
アスンソン	エンカルナシオン	荒橋文彦	24	広島	食油精製	日清製油株式会社
	ラ・コルメナ	三井昭	30	(長野)	果樹園芸	功刀幹治(方)
	イグアス	佐藤満	21	岩手	農協経理	住田農業協同組合
ブエノス・アイレス	ウルキツサ	西田克己	25	長崎	花卉園芸	藤田侃司(方)
	ヘネラルパチエコ	光田友宏	25	(愛媛)	花卉園芸	永田洋炭園
サンタ・クルス	サンフアン	上野克之	22	長崎	養鶏	石田鉄工株式会社
	"	川上啓介	20	長崎	畜産	農林省十勝種畜牧場
	オキナワ第1	安里 マルセロ	21	沖縄	養鶏	沖縄県家畜衛生試験場
サント・ドミンゴ	レモンデ・ジウナ	川代康夫	24	北海道	畜産	農林省十勝種畜牧場

研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所 在 地	代表者名	電話番号
732-22	広島県佐伯郡大柿町大原	長坂五郎	082357-2204
371	群馬県前橋市総社町総社2326-2	岡部光波	0272-51-5145
989-02	宮城県白石市字沢目6番	小池宗次	02242-6-2376
104	東京都中央区京橋1丁目3番地 新八重州ビル	戸田 順之助	03-562-6111
108	東京都港区高輪3丁目23番14号	津 重 正	03-447-2111
280	千葉県千葉市登戸町2丁目140番地	鳥 海 一 郎	0472-41-8111
854	長崎県諫早市具津町1481	平 井 寛	09572-6-1642
860	熊本県熊本市南千反畑町2番3号	吉 水 淳	0963-55-6345
860	熊本県熊本市清水町万石6番地	梅 本 明 助	0963-44-2323
235	神奈川県横浜市磯子区新森町1番地	大 島 政 志	045-751-1281
400-02	山梨県中巨摩郡白根町西野2854	功 刀 幹 治	05528-2-2557
029-24	岩手県気仙郡住田町下有住字十文字	佐 藤 博	01924-8-2311
673-02	兵庫県神戸市垂水区平野町福中147	藤 田 侃 司	078-961-2101
472	愛知県知立市牛田町芋堀1番地	永 田 一 策	0566-81-0041
498	三重県桑名郡木曾町東見人	石 田 昭 三	05676-5-1155
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中 園 信 善	015597-31-2
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上 里 宣 治	0988-32-1515
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中 園 信 善	015597-31-2

第 8 回 移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修機関	研修機関名	郵便番号	
リオ・デ・ ジャネイロ	フンヤール	今村 真一	22	福岡	畜産	福岡県種鶏場	818-01
サンパウロ	サンパウロ	林田 秀房	23	(熊本)	油圧技術	太陽鉄工(株)	533
	サンパウロ	百合 正夫	27	(愛媛)	果樹園芸	長野県農業総合 試験場	382
	クリチーバ	高橋 アリ富	25	(福島)	養魚孵化	石川県殖産試験場	926-02
	モン・ダス・ クルーゼス	田中 勝彦	22	香川	食用作物	熊本県農業試験 場園芸支場	861-11
ベレーン	マナオス	高野 裕弥	25	北海道	自動車修理	苫小牧専修職業 訓練校	053
	グアマ	横山 富貴子	22	宮崎	生活改善	日本高等国民学校	319-03
ポルト・アレグレ	イタプアン	遠田 廉吉	20	熊本	果樹園芸	熊本県果樹試験場	869-05
	ラーモス	岩崎 正基	22	山口	果樹園芸	岡山県農業試験場	709-08
アスンシオン	アマンバイ	中島 義明	29	熊本	農業機械	神奈川県立農業 大学校	243-04
	フラム	松岡 健	18	高知	農協運営	福岡県農業協同 組合講習所	813
	アルト・パラナ	石原 由起	17	(兵庫)	医療	聖ヨゼフ病院准 看護学院	238
アエノス・アイレス	ガルアペー	山田 陽二	29	広島	花卉園芸	赤塚植物園	514-22
サンタ・クルス	サンフアン	近藤 勇	18	(新潟)	畜産	農林省十勝種畜 牧場	085-05
	サンフアン	山口 政雄	19	長崎	農業機械	長崎高等職業訓 練校	859-06
	オキナワ第1	具志堅 進	22	(沖縄)	農業機械	具志川専修職業 訓練校	904-22
	オキナワ第3	中村 安栄	24	沖縄	電気工事	具志川専修職業 訓練校	904-22

研修生研修機関一覧表

所在地 / 帰国後の連絡先
福岡県筑紫郡太宰府町大字太宰府 / CEP 28680, Caixa Postal No.21, Fazenda Funcnal, Cachoeiras de Macaco, Est. do Rio de Janeiro Brasil
大阪府大阪市東淀川区北江口町48番地 / CEP 04130, Av. Camilo Castelo Branco No.54, Vila Gumercindo, Sao Paulo Capital, Brasil
長野県須坂市大字小河原492 / CEP 18190, Rua José Braga Sobrinho No.157, Pilar do Sul, Est. de Sao Paulo, Brasil
石川県鹿島郡能登島町字曲 / CEP 86280, Caixa Postal No.147, Uraí, Est. do Paraná, Brasil
栃木県菊池郡西台志町須屋2450 / CPE 08700, Caixa Postal No.1, Mogi das Cruzes, Est. de Sao Paulo, Brasil
北海道苫小牧市日吉町3丁目4番の1 / Av. Tarumã No.422, Manaus, Est. do Amazonas, Brasil
茨城県東茨城郡内原町1497 / No.3515, Bairro Niarcos, Belem, Para, Brasil
栃木県上益城郡松橋町豊福2566 / CEP 90000 a/c Comercial Agricola Semeagro Ltd. No.425, Rua Vitor Valpirio, Bairro Anchieta Porto Alegre, Est. do Rio Grande do Sul, Brasil
山梨県赤松郡山陽町神田沖1174-1 / CEP 89520, Caixa Postal No.161, Curitibaanos, Est. de Santa Catarina, Brasil
神奈川県海老名市杉久保2006 / a/c Coop. Amambay, Caixa Postal No.128, Ponta Pora, Est. de Matto Grosso do Sul, Brasil
福岡県福岡市東区大字名島2751-38 / a/c Cooperativa La Paz, Casilla de Correo No.4, Encarnación, Paraguay
神奈川県横須賀市緑が丘28番地 / a/c Agencia de Cooperación Internacional del Japon, Casilla de Correo No.38, Encarnación, Paraguay
三重県津市高野尾町1868の3 / Colonia Lujan Garuhape, Provincia de Misiones, Argentina
北海道河東郡音更町字中音更 / Casilla de Correo No.464, Colonia San Juan, Santa Cruz, Bolivia
岐阜県西彼杵郡長与町高田郷 / Casilla de Correo No.464, Santa Cruz, Bolivia
福井県志川市字兼箇段1945番地 / Colonia Okinwa, Casilla de Correo No.582, Santa Cruz, Bolivia
福井県志川市字兼箇段1945番地 / Casilla de Correo No.262, Santa Cruz, Bolivia

第9回移住者子弟技術研修

支 部	地 区	氏 名	年 令	本籍地	研修職種	研 修 機 関 名	郵便番号
サン・パウロ	グッタバラ	大津 敏一	21	茨 城	養 蚕	例授鶏園の玉子	311-34
	イビウーナ	林ルイス伸明	19	(高知)	植物病理	高知県立農業大学校	781-21
	ピリチーパ・ミリン	菅野 弘	23	福 島	T V修理	東京芝浦電気株式会社	221
ベレーン	グアマ	吉野ペドロ 謙	20	(宮崎)	農業機械	都城農業協同組合 中央農機具整備センター	885
	ポルト・ヴェリヨ	須藤 グロリア	23	(福島)	生活改善	福島緑ヶ丘学園 福島トレスメーカー専門学校	960
リオ・デ・ジャネイロ	フンソール	小松 滋	24	北海道	果 樹	沖縄県立 農業試験場名護支場	905
ポルト・アレグレ	ペロッタス	横山 隆	32	北海道	畜 産	熊本県立農業大学校付属 畜産高等研修所	869-23
アスンシオン	イグアスー	上田 時江	26	広 島	助産婦	社会福祉法人 聖選会聖選病院	466
	"	菅野 忠	26	秋 田	養 鶏	例後藤野卵場	500-91
	アルトバラナ	村尾 健明	24	鹿児島	機械修理	例M S K 東急機械	362
	フ ラ ム	松尾 あけみ	21	(高知)	看護婦	土佐准看護学院	780
フェノス・アイレス	ボンテ・ベドラー	重永 智平	26	山 口	バラ栽培	横山バラ園	254
サンタ・クルス	オキナワ	長 嶺 マリオ	22	(沖縄)	電 気	例北越工業	157
	"	具志堅 るり子	20	(沖縄)	看護婦	社団法人那覇地区医師会 那覇高等看護専修学校	900
	サンファン	米倉 美智也	22	長 崎	旋盤溶接	長崎金属工業協同組合 (有) 秀工社	854
	"	深浦 伸明	23	長 崎	養 鶏	福岡県立農業試験場	818
リ マ	リ マ	森崎 エリザベス	19	-	花卉園芸	( 農家実習 )	257
	"	丸山 ロベルト	24	-	車輛整備	例ナガセ	860

生研修期間（後期）一覽表

所 在 地	帰 国 後 の 連 絡 先
茨城県東茨城郡小川町千楽1050	CEP 14100 Caixa Postal 1337 Ribeirao Preto Estado de Sao Paulo BRASIL
高知県吾川郡伊野町波川234	A/C C.A.C. COOP 1130 CEP 18140 Ibiuna Estado de Sao Paulo BRASIL
横浜市神奈川区新子安2-14-10 東芝新子安寮	CEP 08700 Caixa Postal 153 B. Centro Mogi das Cruzes Estado de Sao Paulo BRASIL
都城市都北町5710	CEP 66000 Trav Maurite Nº 3515 Bairro do Marco Belem Para BRASIL
福島市山居上3	CEP 78900 Caixa Postal 237 Porto Velho Rondonia BRASIL
名護市名護4605-3	CEP 28680 Caixa Postal 54 Fazen Funcha! Cachoeiras de Macacu Estado do Rio de Janeiro BRASIL
熊本県阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	CEP 96100 Caixa Postal 383 Perotas Estado do Rio Grande do Sul BRASIL
名古屋市昭和区川名山町56	Caixa Postal 153 Foz do Yguazu Estado do Parana BRASIL
岐阜市西野町7丁目	Casilla de Correo Nº 2036 Cerro Cora 1114 Asuncion PARAGUAY
上尾市平塚字塚越2384-1	Casilla de Correo Nº 64 Encarnacion PARAGUAY
高知市山端町7 細木病院内	Casilla de Correo Nº 38 Encarnacion PARAGUAY
平塚市田村3053	Casilla 45 Oeste Av. Corrientes 1062 Buenos Aires ARGENTINA
東京都世田谷区北烏山9-23-14	Casilla Nº 590 Santa Cruz BOLIVIA
那覇市東町2601	Casilla Nº 582 Colonia Nº 1 Santa Cruz BOLIVIA
諫早市具津町工場団地	Casilla Nº 464 Santa Cruz BOLIVIA
筑紫野市大字上古賀232	Casilla Nº 464 Santa Cruz BOLIVIA
桑野市下大規1304	General Garzon 2344 Jesus Maria Lima PERU
熊本市世安町361	Jiron Pastaza Nº 764 Interior 101 Brena Lima PERU

J  
LIB